

K-570

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第77集

遺跡詳細分布調査報告書

第 15 集

住 宅 開 発 分 布 調 査

大 規 模 開 發 分 布 調 査

大 塚 山 遺 跡 確 認 調 査

台 ノ 上 遺 跡 緊 急 調 査

2 0 0 2

米 沢 市 教 育 委 員 会

遺跡詳細分布調査報告書

第 15 集

住 宅 開 発 分 布 調 査
大 規 模 開 發 分 布 調 査
大 塚 山 遺 跡 確 認 調 査
台 ノ 上 遺 跡 発 掘 調 査

2002

米 沢 市 教 育 委 員 会

序 文

本報告書は、米沢市教育委員会が平成13年度に、国庫補助事業として実施した「遺跡詳細分布調査」の成果をまとめたものです。

本市教育委員会は、埋蔵文化財の周知を図る目的で、遺跡詳細分布調査を15年間継続しております。調査を重ねることにより、埋蔵文化財の性格や、範囲の解明につながり、新規の遺跡等も発見してまいりました。

今年度の遺跡詳細分布調査では、開発行為に係る緊急発掘調査を1件実施しました。台ノ上遺跡は、小範囲にもかかわらず多量の土器が出土し、あらためて本遺跡の特異性を再確認した次第です。また、大塚山遺跡では遺構・遺物が確認されたことで来年度に緊急発掘調査を実施する計画であります。

今年度も事業を継続することにより、成果を上げることができましたことは関係各位のご理解とご協力を得た結果と感謝申し上げます。今後も開発事業と円滑な調整を図り、可能な限り力を注いでいく所存です。

最後になりましたが、調査に際しご指導を賜りました文化庁、山形県教育庁社会教育課文化財保護室をはじめ、地権者各位、地元の皆様に対し、心からお礼申し上げます。

平成14年3月

米沢市教育委員会

教育長 佐藤政一

例　　言

1 本報告書は、文化庁の補助を受けて実施した、平成13年度の埋蔵文化財調査報告書第77集である。

2 調査は米沢市教育委員会が実施した。

3 調査体制は下記のとおりである。

調査主体 米沢市教育委員会

調査総括 村野 隆男（文化課長）

調査担当 手塚 孝（文化課文化財担当主任）

調査主任 菊地 政信（文化課文化財担当主任）

月山 隆弘（文化課文化財担当主任）

調査参加者 遠藤 富男 加藤 美貴子 近野 慶子 今野 周藏

笠川 由紀 佐藤 謙治 清水 弘文 高橋 俊助

高橋 正子 中村 正弘 水野 とも子 三原 恵美子

渡部 明美

事務局長 唐沢 一義（文化課長補佐兼文化財主査）

事務局 渡邊 紘子（文化課文化財担当主査）

調査指導 文化庁 山形県教育庁 社会教育課 文化財保護室

4 挿図の縮尺は、第I節1は10,000分の1、第I節2は5,000分の1である。第II・III節は挿図毎にスケールで示した。第I・II節の挿図は上部が磁北を示しており、他は各挿図に示した。挿図内の図化及び記号は、HY—住居跡、DY—土廣、MY—埋設遺構、AZ—土器、BZ—石器、FZ-A—土偶、CZ—石器を示す。写真図版の縮尺は適宜行っている。

5 出土遺物は、米沢市埋蔵文化財資料室に保管している。

6 本書の作成は、第I・II節が月山隆弘、第III節は菊地政信、全体については手塚 孝が総括した。

7 調査にあたって、我妻政夫氏・青木 正氏及び関係各位のご協力を得た。記して感謝申し上げます。

本文目次

序文

例言

第I節 住宅開発等に伴う埋蔵文化財調査経過

1 住宅開発に伴う遺跡の確認	1
2 大規模開発に伴う分布調査	1
3 試掘調査状況	4

第II節 大塚山遺跡確認調査

1 遺跡の概要・経過	24
2 検出遺構	24
3 出土遺物	24

第III節 台ノ上遺跡発掘調査

1 遺跡の概要	28
2 調査の経過	31
3 検出遺構	31
4 出土遺物	34
5 まとめ	37

報告書抄録	48
-------------	----

付表目次

表-1 分布調査箇所	2
表-2 大規模開発分布調査票箇所	3

挿図目次

第1図	窪田新館跡位置図	4
第3図	台ノ上遺跡位置図	4
第5図	下花沢b遺跡位置図	5
第7図	東大通一丁目遺跡位置図	6
第9図	普門院・普門院館跡位置図	6
第11図	大壇遺跡位置図	7
第13図	丹南遺跡位置図	8
第15図	上谷地b遺跡位置図	8
第17図	西谷地b遺跡位置図	9
第19図	鎌山平城跡位置図	11
第21図	成島町調査区位置図	12
第23図	徳町調査区位置図	13
第25図	塩井町調査区位置図	14
第27図	大塚山遺跡調査区位置図	15
第29図	広幡町調査区位置図	16
第31図	塩井町調査区位置図	17
第33図	荒屋・中谷地a遺跡位置図	18
第35図	六郷町調査区位置図	19
第37図	六郷町調査区位置図	20
第39図	窪田町調査区位置図	21
第41図	太田町調査区位置図	22
第43図	六郷町調査区位置図	23
第45図	調査区概要図	26
第47図	台ノ上遺跡位置図	29
第49図	台ノ上遺跡遺物出土状況(確認面)	32
第51図	台ノ上遺跡遺物出土土器実測図(1)	35
第53図	台ノ上遺跡遺物出土石器実測図(3)	38
第55図	台ノ上遺跡遺物出土土器拓影図(1)	40
第57図	台ノ上遺跡遺物出土土器拓影図(3)	42
第59図	台ノ上遺跡遺物出土土器拓影図(5)	44
第61図	台ノ上遺跡遺物出土土器拓影図(8)	46
第2図	花沢a遺跡位置図	4
第4図	萩の森遺跡位置図	5
第6図	荒屋遺跡位置図	5
第8図	堂田遺跡位置図	6
第10図	台坂遺跡位置図	7
第12図	塩野上屋敷館跡位置図	7
第14図	地蔵園遺跡位置図	8
第16図	堀場遺跡位置図	9
第18図	米沢城跡位置図	10
第20図	下花沢調査区位置図	12
第22図	花沢町調査区位置図	13
第24図	南原中学校遺跡位置図	14
第26図	春日調査区位置図	15
第28図	金池調査区位置図	16
第30図	通町調査区位置図	17
第32図	李山調査区位置図	18
第34図	六郷町調査区位置図	19
第36図	窪田町調査区位置図	20
第38図	築沢調査区位置図	21
第40図	万世町調査区位置図	22
第42図	李山調査区位置図	23
第44図	大塚山遺跡位置図	25
第46図	大塚山遺跡出土遺物実測図	27
第48図	台ノ上遺跡調査区位置図	30
第50図	台ノ上遺跡遺構全体図(完掘状況)	33
第52図	台ノ上遺跡遺物出土遺物実測図(2)	36
第54図	台ノ上遺跡遺物出土石器実測図(4)	39
第56図	台ノ上遺跡遺物出土土器拓影図(2)	41
第58図	台ノ上遺跡遺物出土土器拓影図(4)	43
第60図	台ノ上遺跡遺物出土土器拓影図(6)	45
第62図	台ノ上遺跡遺構全体図	47

図版目次

- 第1図版 台ノ上遺跡の発掘（調査風景・調査区完掘状況）
- 第2図版 台ノ上遺跡の発掘（MY1出土状況・MY1復元土器）
- 第3図版 台ノ上遺跡出土の土器(1)
- 第4図版 台ノ上遺跡出土の土器(2)
- 第5図版 台ノ上遺跡出土の土器(3)
- 第6図版 台ノ上遺跡出土の土器(4)
- 第7図版 台ノ上遺跡出土の土器(5)
- 第8図版 台ノ上遺跡出土の土器(6)
- 第9図版 台ノ上遺跡出土の土器(7)
- 第10図版 台ノ上遺跡出土の土偶・石器(1)

第Ⅰ節 住宅開発等に伴う埋蔵文化財調査経過

1. 住宅開発に伴う遺跡の確認

本年度、本市教育委員会に住宅開発等によって埋蔵文化財に係わりがあると判断されるため、協議や分布調査等の確認依頼を受けたのは、平成14年2月28日現在で100件以上あった。これらの中で、遺跡包蔵地及び包蔵地以外を含め、実際に試掘調査を実施した内訳は下記のとおりである。

(1) 住宅建設に係わるもの	18件	(2) 店舗建設に係わるもの	2件
(3) 工場・倉庫等に係わるもの	1件	(4) 土地開発等に係わるもの	3件
(5) 公共施設等に係わるもの	8件	(6) その他開発等に係わるもの	8件

以上のように、今年度の調査依頼は例年同様、住宅建設に係わるものが大半を占めており、次いで公共事業の開発及びその他の開発に係わるものである。

上記の分布調査の概要は、大規模開発と区別し調査箇所・調査月日・開発種別・調査方法等を分布調査表-1に一括し、また、位置図と遺跡範囲と調査地点を第1~19図にまとめた。

今年度の住宅開発の分布調査によって遺跡が確認され、発掘調査に至ったのは、第Ⅲ節で報告する「台ノ上遺跡（縄文中期）」があり、小規模な面積から多量の土器が出土している。また、分布調査で遺跡が確認されたが、来年度に発掘調査を計画している「大塚山遺跡（縄文前期・中期）」がある。

今年の宅地開発等の分布調査は例年に比較すると、開発件数が少ないとからか、埋蔵文化財に係わりがある開発は減少傾向であった。

2. 大規模開発に伴う試掘調査

本市教委では、遺跡の周知徹底を図るために遺跡の有無に拘らず、開発面積が1,000m²以上を大規模開発の目安としており、開発者に分布調査依頼書を提出していただき、試掘調査を実施している。

今年度の大規模開発には、23件の分布調査依頼があり、宅地造成が6件と一番多い。次いで砂利採取・岩石採取等で4件あったが、過去に隣接する箇所の試掘調査結果から旧河川跡と判断されることから、遺跡地図確認のみで対処した。

近年の大規模開発傾向は、郊外における大型店舗及び宅地造成による開発が多く見られたが、景気の低迷などからか、今年度は全体的に分布調査依頼の件数も例年より非常に少ない状況であった。

以上の大規模開発に係る試掘調査の概要は、調査箇所・調査月日・開発種別・調査方法等を表-2大規模開発分布調査箇所に一括し、位置図と遺跡範囲と調査箇所を第20~43図にまとめたので参考されたい。

表-1 分布調査箇所

NO	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	館山平城	館山五丁目6,516	4月9日	住宅	トレンチ	遺跡地図
2	米沢城	城南一丁目地内	4月5日	住宅	トレンチ	1m×20m 2本
3	館山平城	館山五丁目6,516-1	4月23日	住宅	トレンチ	1m×8m 外1本
4	窪田新館	窪田町窪田419	5月9日	住宅	トレンチ	1m×10m 外1本
5	花沢a	花沢町一丁目6-17	5月22日	住宅	トレンチ	1m×8m 2本
6	台ノ上	吾妻町60-1	6月1日	物置小屋	トレンチ	1m×4.5m 外1本
7	米沢城	丸の内一丁目4,756-1	6月12日	住宅	トレンチ	0.5m×7m 1本
8	森の森	大字梓川字弓町69-3 外	6月12日	農作業小屋	トレンチ	1m×7m 1本
9	米沢城	城南一丁目142-1	6月20日	住宅	トレンチ	1m×10m 外1本
10	下花沢b	東大通三丁目7,653-6 外	5月29日	住宅	トレンチ	1m×10m 外1本
11	荒屋	大字長手字中谷地1,886	6月21日	住宅	トレンチ	1m×10m 外1本
12	米沢城	城南一丁目116-1 外	7月2日	共同住宅	トレンチ	1.5m×10m 外1本
13	館山平城	吹屋敷町231-2 外	7月4日	住宅	トレンチ	1m×10m 外1本
14	東大通一丁目	東大通二丁目9,196-1 外	7月6日	住宅	トレンチ	1m×10m 外2本
15	堂田	大字浅川字堂田201-1 外	7月6日	畜舎	トレンチ	2m×150m 外2本
16	普門院・普門院館	大字開根字坊住上13,927 外	7月9日	物置小屋	トレンチ	1m×7m 外1本
17	台坂	花沢一丁目1,365-4 外	8月10日	住宅	トレンチ	1m×10m 2本
18	米沢城	丸の内二丁目3,091-4	8月20日	住宅工場・店舗	トレンチ	1m×10m 2本
19	大壇	大字笠野555	8月21日	住宅	トレンチ	1m×12m 2本
20	塙野上屋敷館	塙井町塙野4,322	8月22日	住宅	トレンチ	1m×8m 2本
21	丹南	大字李山字清水ノ道東952-3	8月27日	住宅	トレンチ	2m×30m 2本
22	地蔵園	遠山1,479-1	9月3日	公衆便所	トレンチ	1m×6m 4本
23	米沢城	城南一丁目116-2 外	9月6日	共同住宅	トレンチ	2m×10m 1本
24	東大通一丁目	東大通一丁目17,070-10	9月18日	事務所	トレンチ	2m×8m 2本
25	下花沢b	下花沢一丁目11-6	9月21日	事務所	トレンチ	2m×8m 2本
26	上谷地b	大字川井549	9月27日	消防ポンプ庫	トレンチ	1m×5m 2本
27	堰場	大字木和田字鶴谷地519-1 外	10月2日	住宅	トレンチ	1m×8m 2本
28	下花沢b	下花沢一丁目7,571-1	10月15日	車庫	トレンチ	1m×6m 2本
29	堰場	大字木和田字鶴谷地543-2	10月25日	畜舎	トレンチ	1m×10m 2本
30	下花沢b	下花沢一丁目6,988-21	1月29日	車庫	トレンチ	1m×6m 2本
31	館山平城	館山一丁目1-6	2月5日	住宅	トレンチ	1m×10m 2本

表-2 大規模開発分布調査箇所

NO	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	該当なし	下花沢三丁目1,876-4外	4月20日	宅地造成	トレンチ	1.5m×15m 外1本
2	該当なし	成島二丁目地内	4月23日	宅地造成	トレンチ	1.5m×30m 外5本
3	該当なし	花沢町一丁目6-17	6月12日	公共施設	トレンチ	2m×80m 外5本
4	該当なし	徳町地内	6月29日	店舗	遺跡地図	
5	南原中学校	大字李山地内	7月17日	グランド整備	トレンチ	2m×120m 3本
6	該当なし	塩井町荒川地内	8月1日	宅地造成	遺跡地図	
7	該当なし	春日二丁目3-1外	8月10日	宅地造成	遺跡地図	
8	大塚山	笹野1,386-2外	8月22日	宅地造成	トレンチ	4m×10m 1本
9	該当なし	金池五丁目9-7	8月30日	モレハカリ鑿	遺跡地図	
10	該当なし	東大通三丁目7,653-6 外	5月29日	住宅	トレンチ	1m×10m 他1本
11	該当なし	広幡町小山田955外	8月30日	住宅	遺跡地図	
12	該当なし	通町四丁目9-3外	9月3日	店舗	トレンチ	2m×30m 外1本
13	該当なし	塩井町塩野字塙場5103外	9月13日	砂利採取	遺跡地図	
14	中谷地a	大字梓川地内	10月23-24日	道路新設	トレンチ	5m×10m 外13本
15	該当なし	六郷町桐原地内	10月29日	砂利採取	遺跡地図	
16	該当なし	六郷町桐原字与惣在家343-1外	11月6日	砂利採取	遺跡地図	
17	該当なし	崖田町崖田地内	11月15日	グランド整備	トレンチ	1.5m×70m 外4本
18	該当なし	六郷町一漆地内	11月15日	屋内運動場	トレンチ	1.5m×60m 外3本
19	該当なし	大字篠沢地内	11月16日	公共施設	トレンチ	1.5m×50m 外8本
20	該当なし	崖田町藤泉地内	11月16日	店舗 外	トレンチ	1m×10m 外10本
21	該当なし	大字李山字御入水西3675	11月22日	工業団地	遺跡地図	
22	該当なし	太田町三丁目地内	12月3日	宅地造成	トレンチ	2m×10m 8本
23	該当なし	六郷町西藤泉地内	12月7日	公共施設	遺跡地図	

試掘調査状況

1 墟田新館跡

本遺跡は、市街地北方約3kmの埴田町埴田に位置し、標高約227mの水田地帯に所在する中世の築跡である。

当該地に、1m×10mのトレンチ外1本を設定し調査した結果、表土下30cmで、茶褐色粘土質シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。



第1図 墟田新館跡位置図

2 花沢八遺跡

本遺跡は、JR米沢駅北西約1km、最上川河岸段丘の標高250mに位置する。遺跡範囲は東西200m×南北300mに分布し、縄文時代（前期～後期）の遺跡である。

当該地に、1m×8mのトレンチ2本を設定し調査した結果、表土下30cmで、茶褐色粘土質シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。



第2図 花沢八遺跡位置図

3 台ノ上遺跡

本遺跡は、市街地南方2kmの住宅街に位置し、最上川の自然堤防上の標高263mに立地する。遺跡範囲は東西250m×南北750mに分布する縄文時代の遺跡である。

遺跡は、平成7年度から13年度まで6回の発掘調査を実施しており、縄文中期の大集落であることが判明している。

当該地に、1m×4.5mのトレンチ外1本を設定し調査した結果、表土下30cmで、茶褐色シルトの地山層が確認され、ほぼ完形の埋設の遺物等が多量出土したことから、開発者にその旨を伝え、協議し発掘調査に至った。調査結果は、第Ⅲ節で報告する。



第3図 台ノ上遺跡位置図

4 萩の森遺跡

本遺跡は、市街地北東約5km、独立丘陵戸塚山古墳群の東側直下に位置し、標高233mの水田地帯に所在する。

遺跡範囲は東西800m×南北300mに分布する、奈良・平安時代の遺跡である。

当該地に、1m×7mのトレンチ1本を設定し調査した結果、表土下40cmで、茶褐色粘土質シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。

5 下花沢b遺跡

本遺跡は、万世町片子地内のJR米沢駅東側約400mに位置し、最上川の河岸段丘の標高257mに所在する。東西200m×南北600mに分布する。

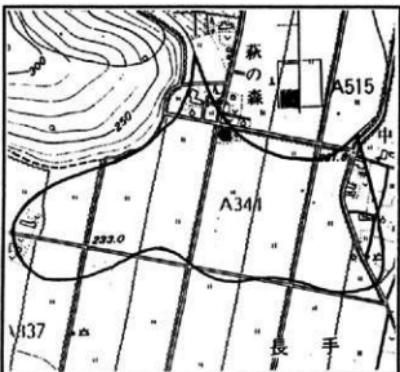
今回の申請は4件あり、Aは住宅、Bは事務所、C・Dが車庫に伴うものである。当該地にそれぞれ1m×6m・2m×8mのトレンチ各2本を設定し調査した結果、表土下40cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。

6 荒屋遺跡

本遺跡は、市街地北東約4km、独立丘陵戸塚山古墳群の南東側に位置し、標高235mの水田地帯に所在する。

遺跡範囲は東西600m×南北500mに分布する、奈良・平安時代の遺跡である。

当該地に、1m×10mのトレンチ外1本を設定し調査した結果、表土下40cmで、茶褐色粘土質シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。



第4図 萩の森遺跡位置図



第5図 下花沢b遺跡位置図



第6図 荒屋遺跡位置図

7 東大通一丁目遺跡

本遺跡は、東大通一丁目地内のJR米沢駅南側約600mに位置し、最上川の河岸段丘の標高270mに所在する。東西150m×南北300mに分布する縄文時代の遺跡である。

今回の申請は2件あり、Aは住宅、Bは事務所に伴うものである。当該地にそれぞれ1m×10m・2m×8mのトレンチ各2から3本設定し調査した結果、表土下40~50cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。

8 堂田遺跡

本遺跡は、市街地北東約4km、独立丘陵戸塚山古墳群の南側に位置し、標高235mの水田地帯に所在する。

遺跡範囲は東西250m×南北250mに分布する、奈良・中世の遺跡である。

当該地に、2m×150mのトレンチ3本を設定し調査した結果、表土下30cmで、灰褐色粘土質の地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。

9 普門院・普門院館跡

本遺跡は、JR関根駅南西側約300mに位置し、標高307mに所在する。東西100m×南北100mに分布する館跡である。

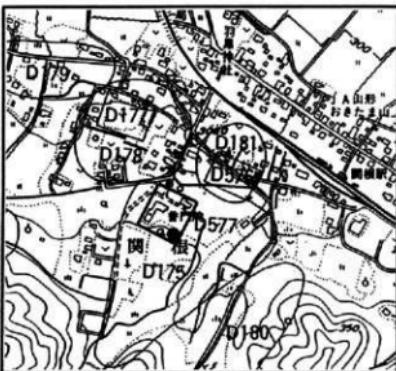
今回の申請は1件で、物置小屋に伴うものである。当該地にそれぞれ1m×7mのトレンチを2本設定し調査した結果、表土下50~80cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。遺構は確認されなかったが、近世の陶器片が出土した。しかし、中世期に属するものでなかったことから、念のため慎重工事を指示した。



第7図 東大通一丁目遺跡位置図



第8図 堂田遺跡位置図



第9図 普門院・普門院館跡位置図

10 台坂遺跡

本遺跡は、下花沢三丁目付近のJR米沢駅北側約200mに位置し、最上川の河岸段丘の標高244mに所在する。東西400m×南北650mに分布する縄文時代の遺跡である。

今回の申請は1件で、住宅に伴うものである。当該地に1m×10mのトレンチ2本設定し調査した結果、表土下40~50cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。

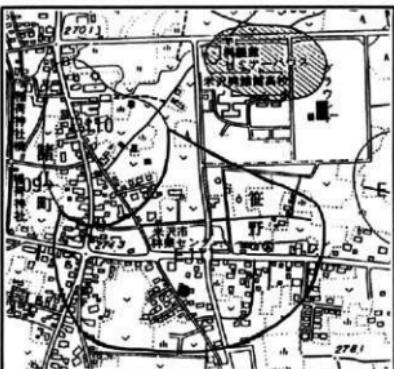


第10図 台坂遺跡位置図

11 大堀遺跡

本遺跡は、笹野地区内の市街地南側約6kmに位置し、標高244mに所在する。東西550m×南北450mに分布する縄文時代の遺跡である。

今回の申請は1件で、住宅に伴うものである。当該地に1m×12mのトレンチ2本設定し調査した結果、表土下60~70cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。

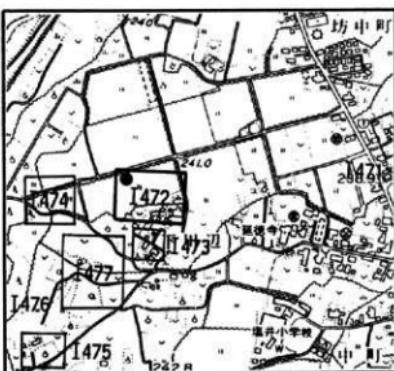


第11図 大堀遺跡位置図

12 塩野上屋敷館跡

本遺跡は、塩井町地内の市街地北西側約5kmに位置し、標高241mの水田地帯に所在する。東西150m×南北100mに分布する中世の館跡である。

今回の申請は1件で、住宅に伴うものである。当該地に1m×8mのトレンチ2本設定し調査した結果、表土下30cmで、褐色シルトの地山層が確認された。しかし、既存の建物によって擾乱しており、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。



第12図 塩野上屋敷館跡位置図

13 丹南遺跡

本遺跡は、丹南地内の市街地南側約10kmに位置し、標高360mに所在する。東西300m×南北200mに分布する縄文（前期から晩期）の遺跡である。

今回の申請は1件で、住宅に伴うものである。現況は水田であり、当該地に2m×30mのトレンチ2本設定し調査した結果、表土下30~50cmで、黄灰色シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。



第13図 丹南遺跡位置図

14 地蔵園遺跡

本遺跡は、遠山地内の市街地西側約5kmに位置し、標高299mに所在する。東西200m×南北200mに分布する縄文（晩期）の遺跡である。

今回の申請は1件で、公衆便所に伴うものである。現況は水田であり、当該地に1m×6mのトレンチ4本設定し調査した結果、表土下60~80cmで、褐色シルトの地山層が確認された。しかし、既存の建物によって攪乱しており、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。

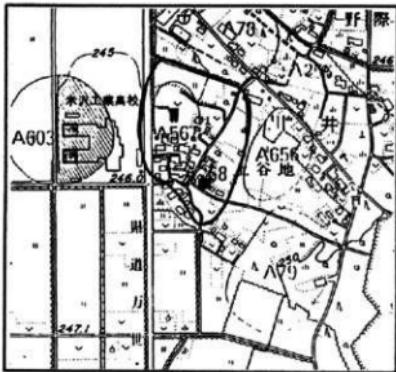


第14図 地蔵園遺跡位置図

15 上谷地b遺跡

本遺跡は、川井地内の市街地北東約4kmに位置し、標高246mに所在する。東西200m×南北300mに分布する、縄文（晩期）・奈良・平安時代の複合遺跡である。

消防ポンプに伴うもので当該地に、1m×5mのトレンチ2本を設定し調査した結果、表土下30cmで、灰褐色粘土質の地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかったことから慎重工事を指示した。



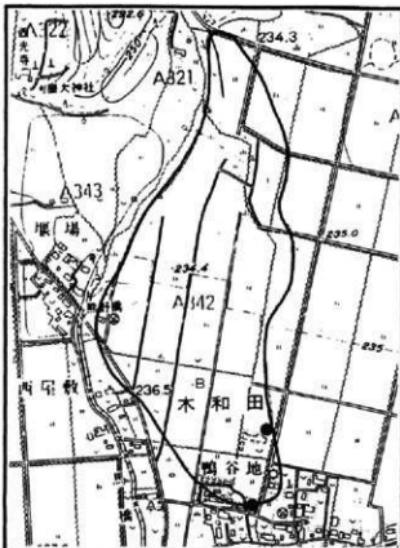
第15図 上谷地b遺跡位置図

16 墳場遺跡

本遺跡は、市街地北東約4km、独立丘陵戸塚山古墳群の南側に位置し、標高約236mの水田地帯に所在する。

遺跡範囲は東西400m×南北1kmに分布する、奈良・平安・中世の複合遺跡である。

当該地には2件の申請があり、Aは住宅、Bは畜舎に伴うものであった。当該地に、1m×8m、1m×10mのトレンチをそれぞれ2本を設定し調査した結果、Aは既存の建物によって攪乱している部分もあったが、表土下40cmで、茶褐色シルト、Bは表土下30~50cmで茶褐色粘土質シルト地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。





第18図 米沢城跡位置図

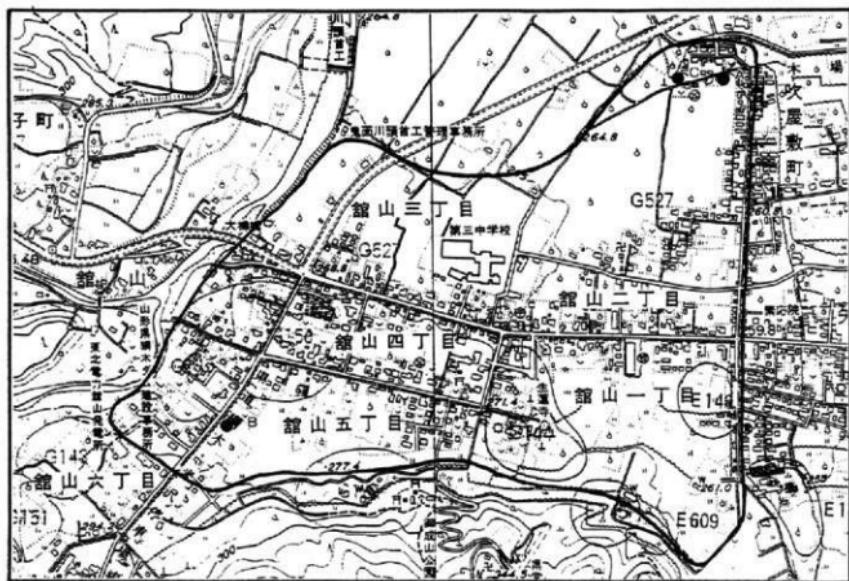
18 米沢城跡

本遺跡は、市街地の松が岬公園一帯に所在し、付近には上杉神社、博物館、観光センター、商店街があり、市民の憩いの場所になっている。丸の内一丁目を中心とする城南、松が岬、門東町地内の標高248～252mに所在する。

遺跡は、本丸、二の丸、三の丸の一部を含め、東西約770m×南北900mの約690,000m²の範囲を有し、市街地では最も広範囲に分布する。米沢城跡の発掘調査は、東二の丸、南二の丸、を含め過去7回実施している。

当該地には今回6件の申請があり、A～Cは住宅、D・Fが共同住宅、Eは住宅・工場・店舗に伴うものであった。

当該地に、0.5m×7m、1m×20m等のトレンチをそれぞれ2本設定し調査した結果、概ね表土下50～80cmで、茶褐色や黒褐色粘土質シルト層であった。旧堀跡部分では泥炭層になっており、地山層上部には焼土や白壁の焼けた土が混入していた。火災時の整地層と判断される。また、地山層上部の殆どが擾乱層になっていた。全ての調査箇所で、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。



第19図 館山平城跡位置図

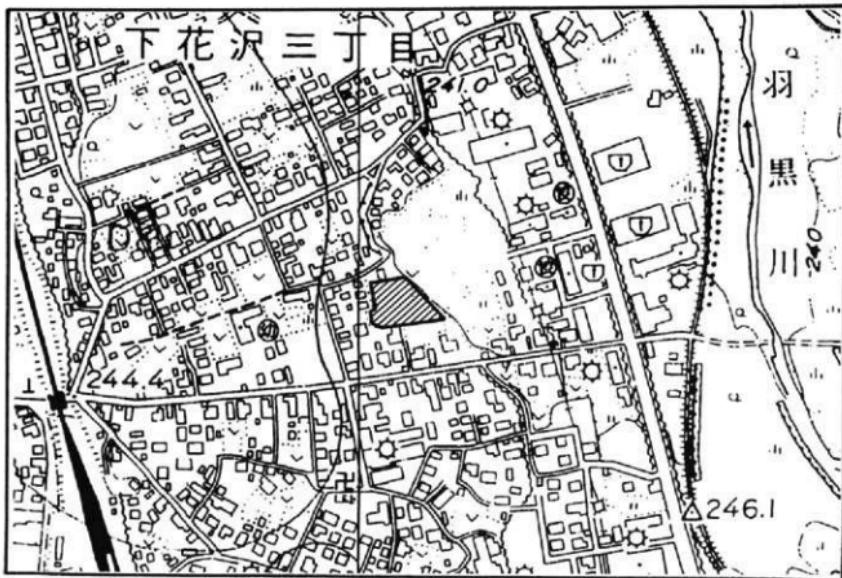
19 館山平城跡

本遺跡は、市街地から西方約4km、館山一丁目から五丁目付近に所在し、標高約260~277mに所在する。遺跡範囲に関しては明確ではないが、遺跡の東側に現存する並松土手を遺跡の東側範囲としている。東西約1.3km×南北約700mの約1,040,000m²の範囲を有しており、郊外ではもっとも広範囲に分布している。

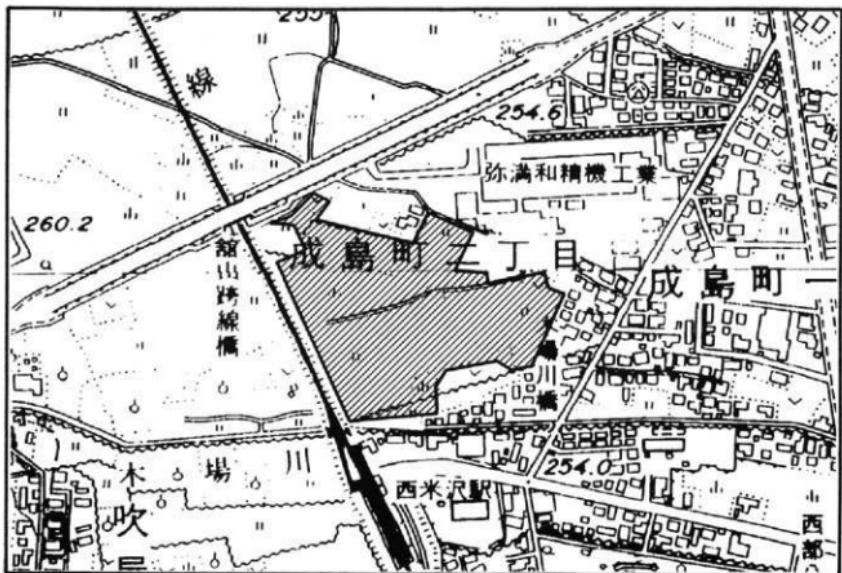
当遺跡範囲内には、縄文時代の大樽遺跡・生蓮寺遺跡・館山a・b遺跡等の縄文前期の遺跡が多く分布している所である。

今年度、館山平城跡の北側部分に当たる箇所、館山北館跡の緊急発掘調査として実施している。報告書は平成14年度3月に刊行する予定である。

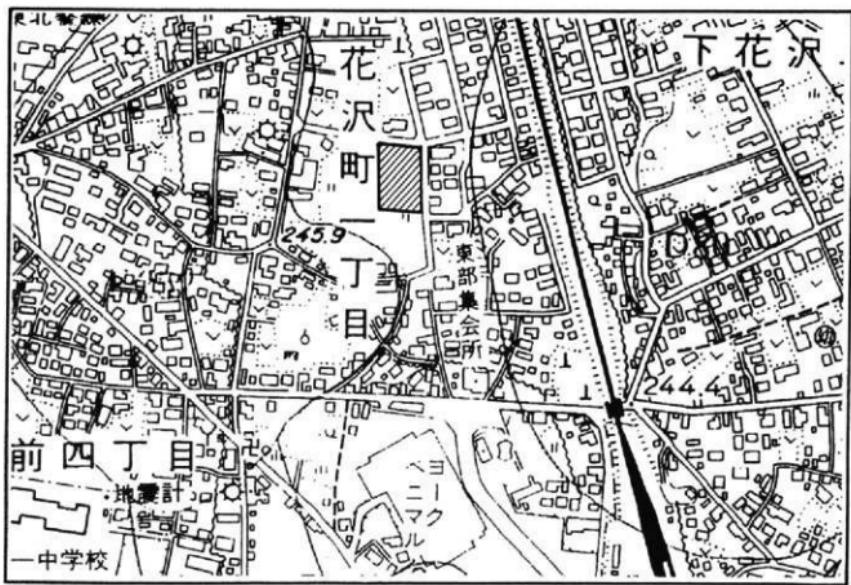
当該地には今回3件の申請があり、A~Cは全て住宅に伴うものであった。当該地に、1m×8m、1m×10m等のトレンチをそれぞれ2本設定し調査した結果、概ね表土下40~60cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、全ての調査箇所で、遺構・遺物等は検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。



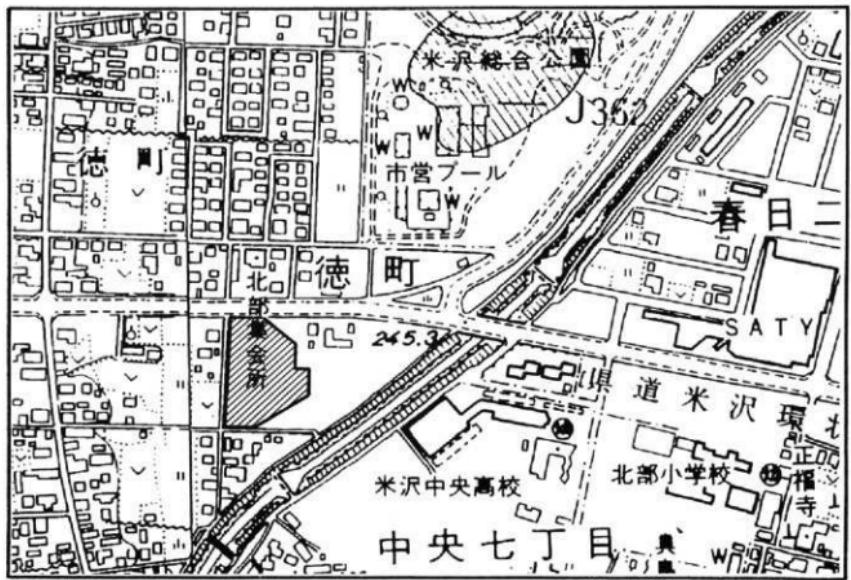
第20図 下花沢調査区位置図



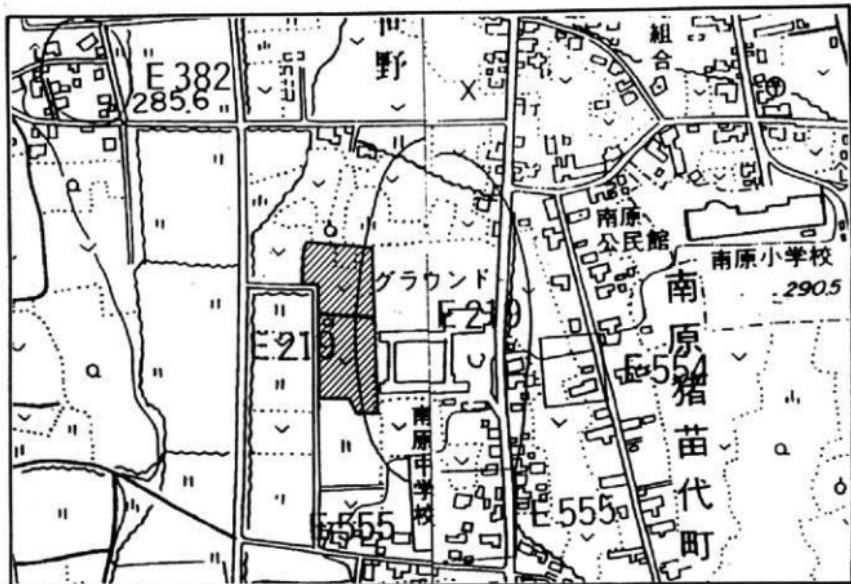
第21図 成島町調査区位置図



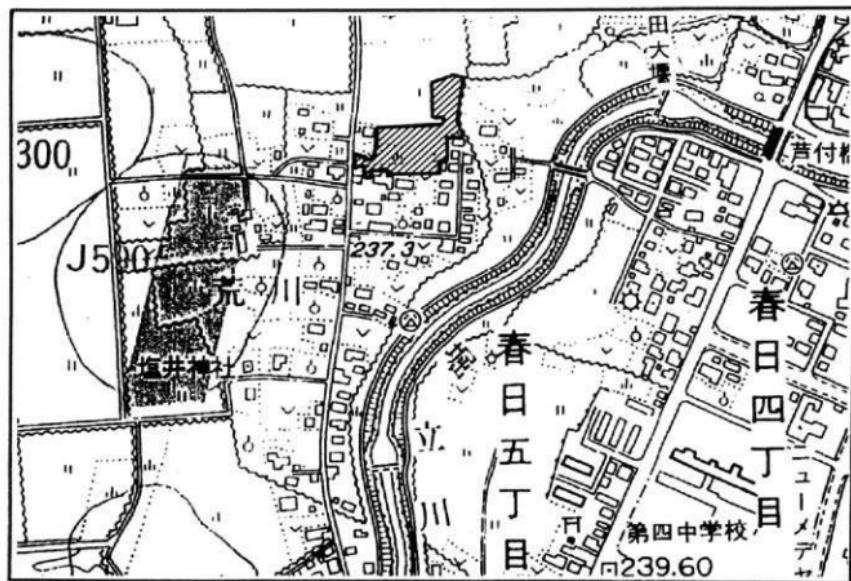
第22図 花沢町調査区位置図



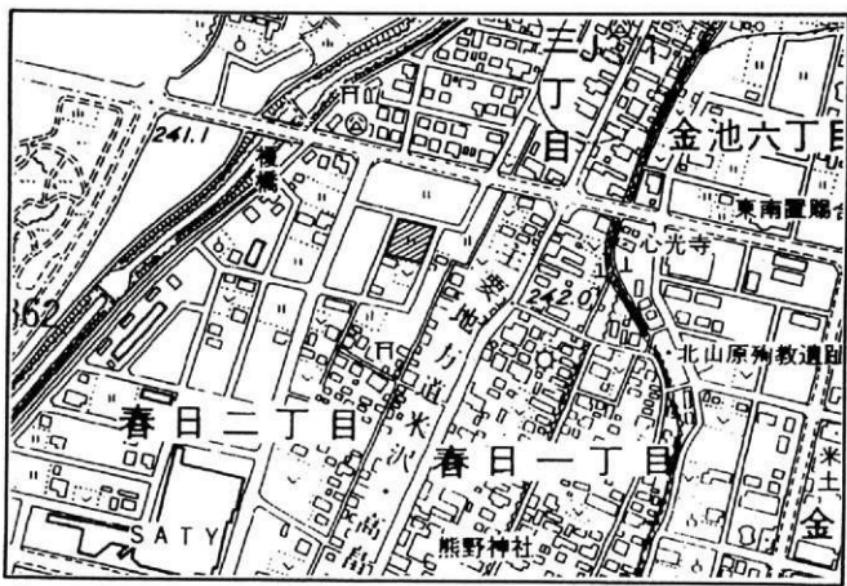
第23図 徳町調査区位置図



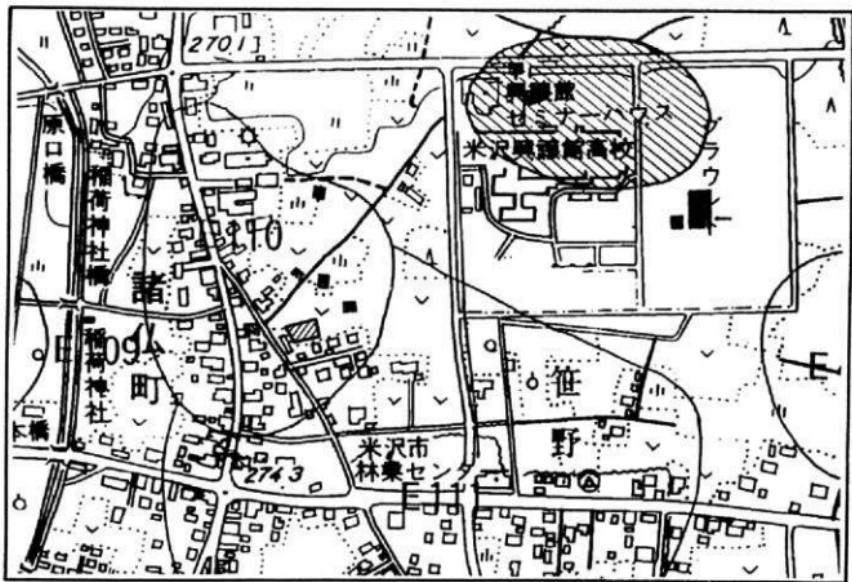
第24図 南原中学校遺跡位置図



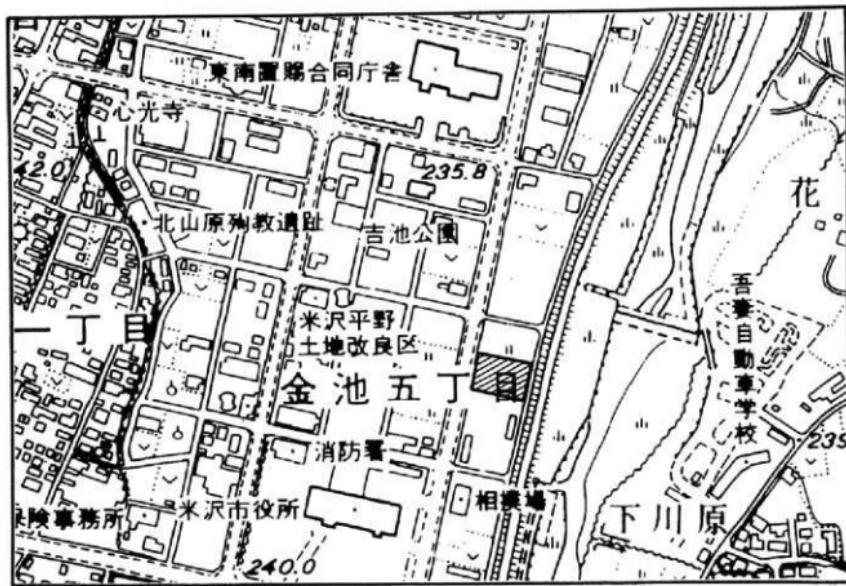
第25図 塙井町調査区位置図



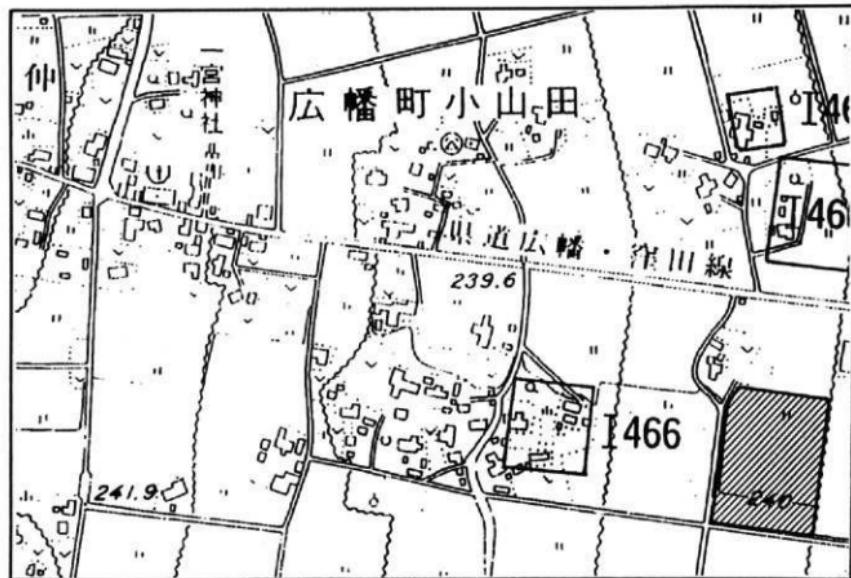
第26図 春日調査区位置図



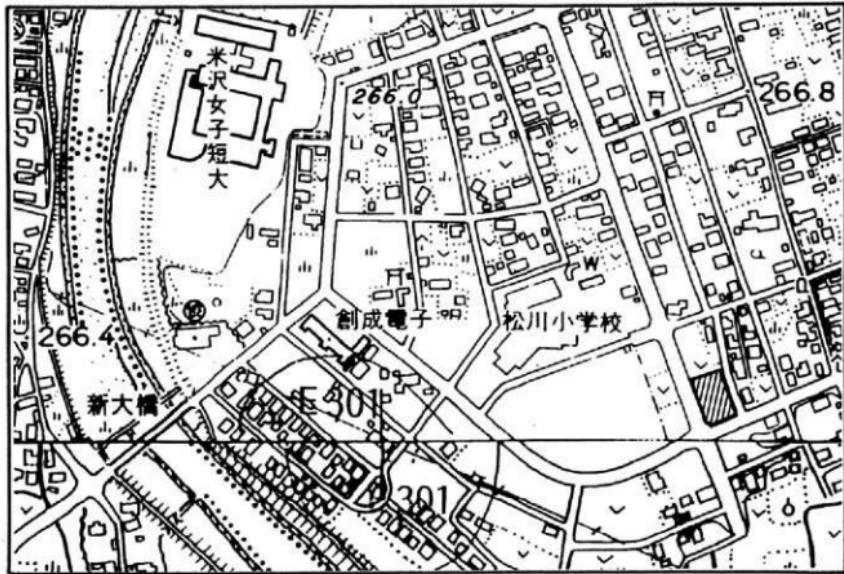
第27図 大塚山遺跡位置図



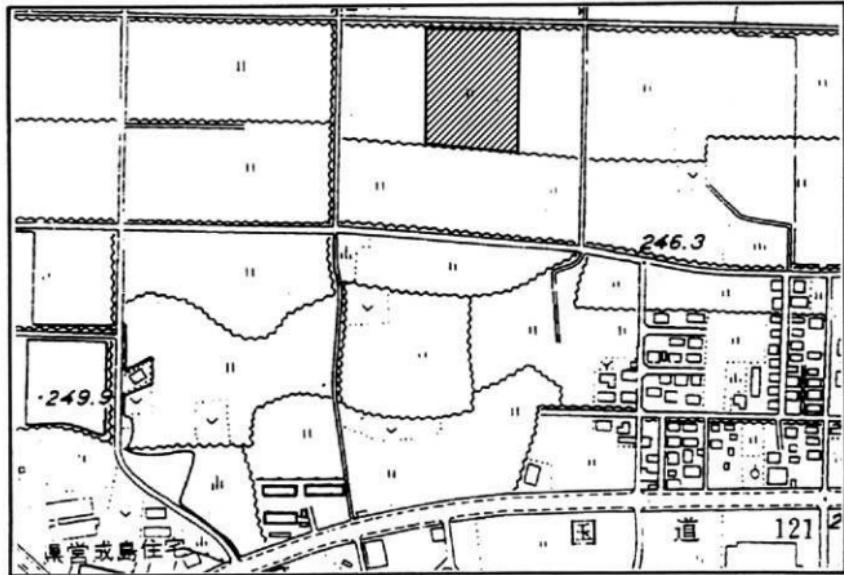
第28図 金池調査区位図



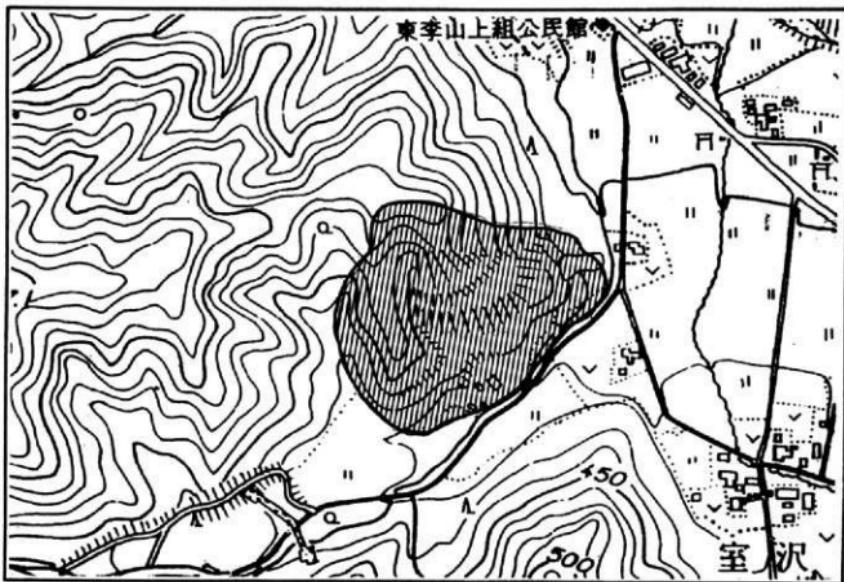
第29図 広幡町調査区位図



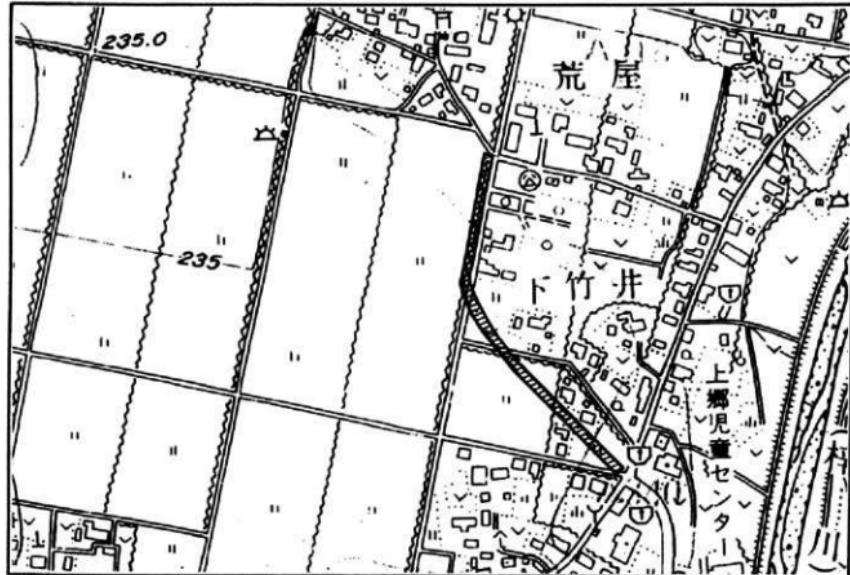
第30図 通町調査区位置図



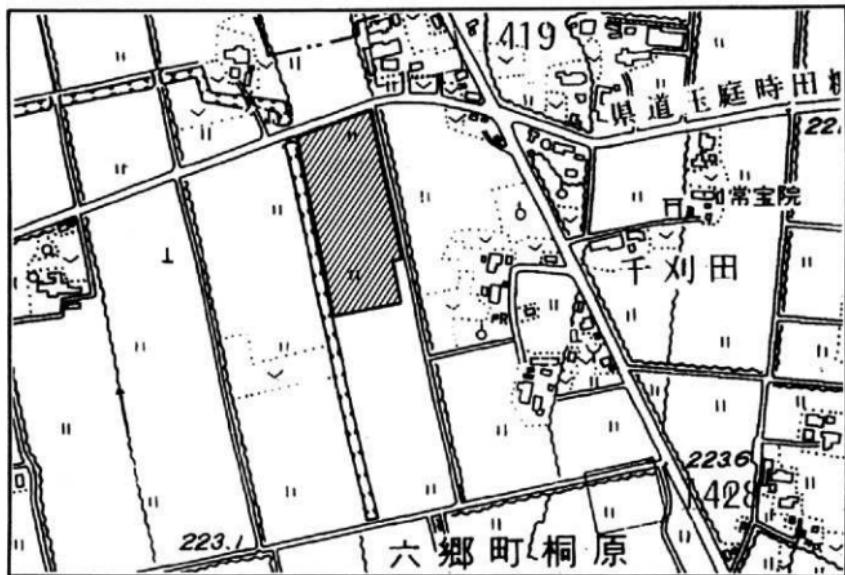
第31図 堀井町調査区位置図



第32図 李山調査区位置図



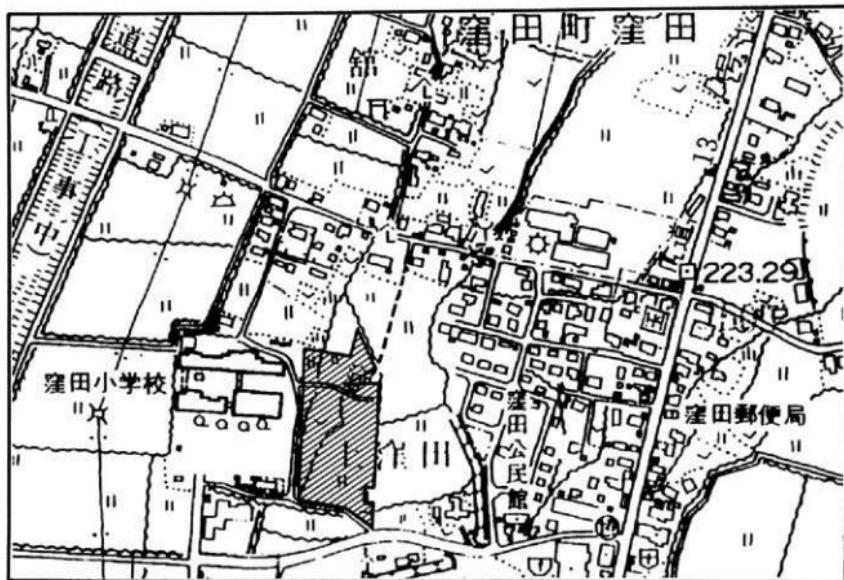
第33図 荒屋・中谷地a遺跡位図



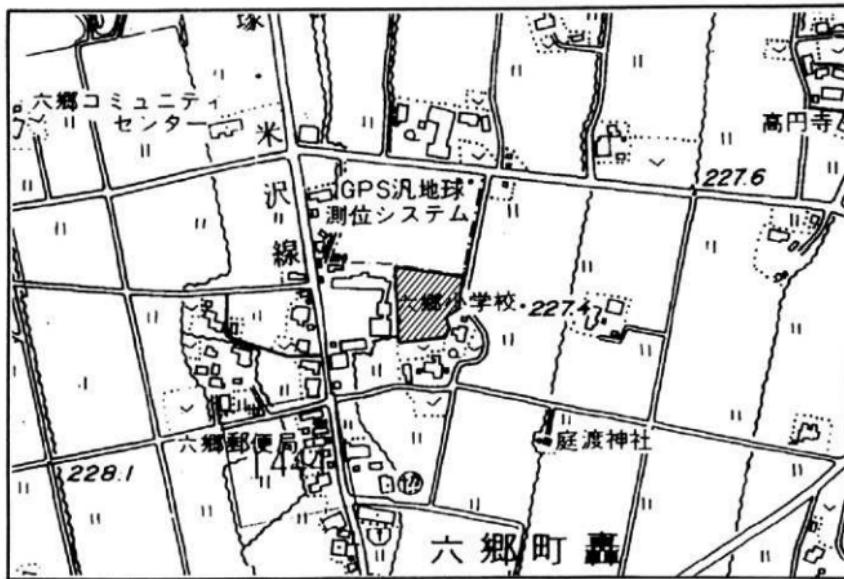
第34図 六郷町調査区位置図



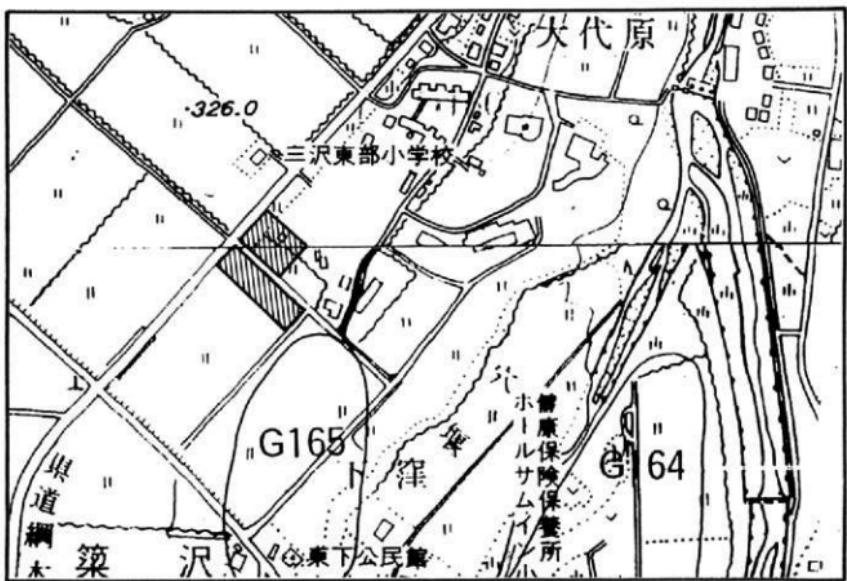
第35図 六郷町調査区位置図



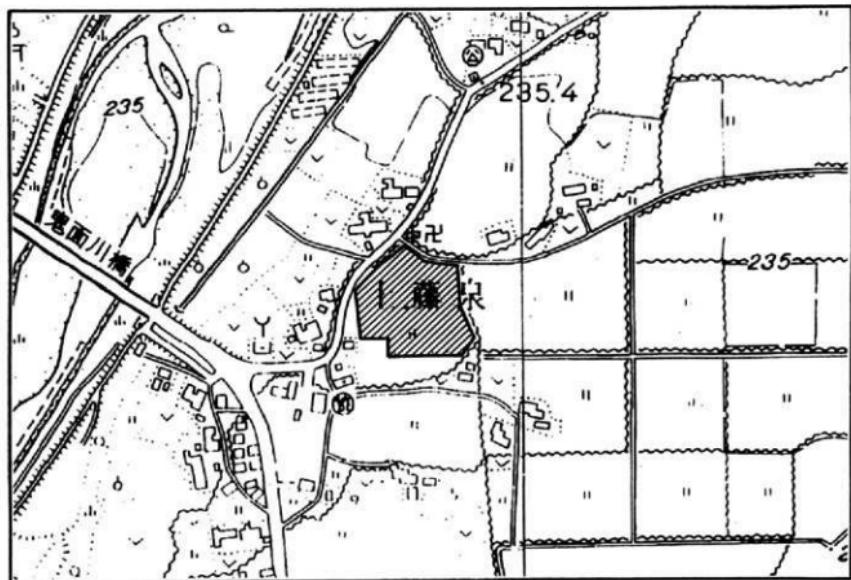
第36図 水谷町調査区位置図



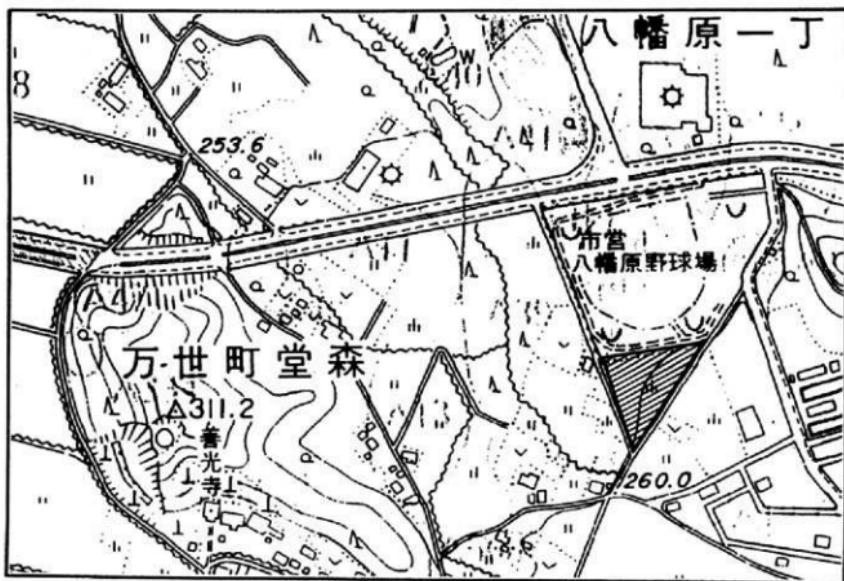
第37図 六郷町調査区位置図



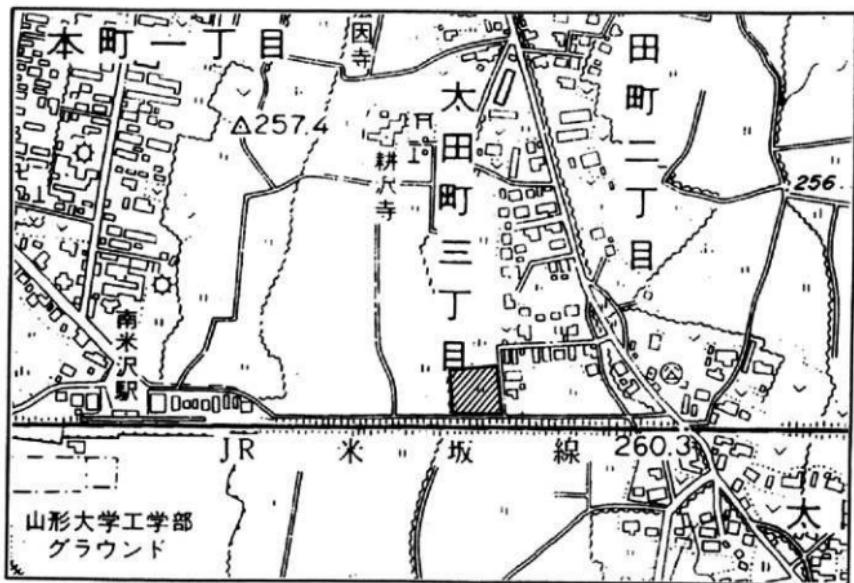
第38図 美沢町調査区位置図



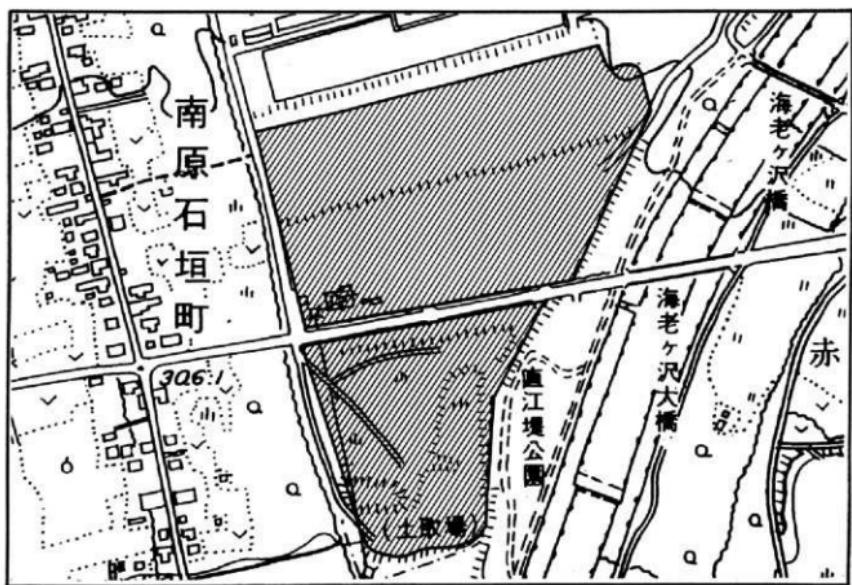
第39図 麦田町調査区位置図



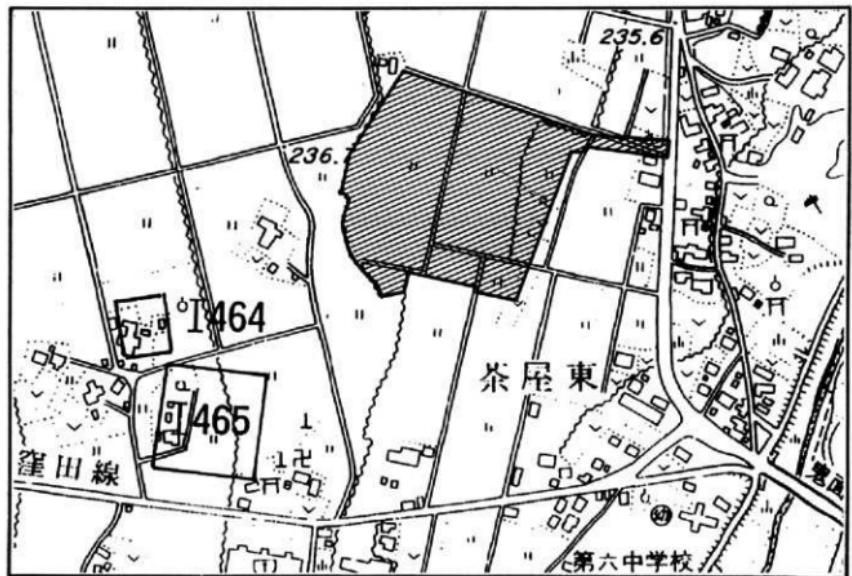
第40図 万世町調査区位置図



第41図 太田町調査区位置図



第42図 李山調査区位置図



第43図 六郷町調査区位置図

第Ⅱ節 大塚山遺跡

1. 遺跡の概要と調査経過

本遺跡は、市街地南方約6km、諸仏町笠野地内に位置し、標高270~275mに所在する。東西250m×南北350mの範囲、約875,000m²に分布する縄文時代（前期・中期）の遺跡である。

当遺跡に隣接する南側には、東西550m×南北400mの遺跡範囲を有する大塙遺跡（縄文前期～晩期）が分布する地域であり、両遺跡を合わせると米沢南部では、吾妻町台ノ上遺跡に匹敵する広大な遺跡である。

当該地付近では、大塙山・大塙遺跡として過去4回の発掘調査を実施しており、1987年は住宅建設に伴って緊急発掘調査を実施している。その調査では、竪穴住居跡3棟、土壙・ピット約30基検出している。また、復元可能な土器3点、石器・石製品約200点出土している。これらの遺物の大半は縄文中期末葉が最も多く、次いで中期中葉、前期初頭で、僅かに後期初頭と晩期の遺物が含まれる。

今回の申請は、個人の住宅建設に伴うものであり、分布調査は平成13年6月22日に実施した。当該地の現況は宅地・畠地になっていることから、調査区は作物等の作付け箇所から除外した。

重機により、4m×約20mの範囲、約80m²と小範囲のL字型の変形トレンチを設定し調査した。付近の耕作土はさらさらした黒ボク土である。地山層までは2層に分けることができ、表土下約50cmで茶褐色シルトの安定した地山層が確認された。

面整査を進めることで、竪穴住居跡と判断される遺構が検出した。また、付近からは縄文土器片や石器片などの遺物が出土している。

2. 検出遺構

検出遺構としては、調査区東側に確認径3m、推定径5m前後の竪穴住居跡と推測される遺構が確認された。また、トレンチ西側には4箇所の柱穴や土壙と推測されるピット群が確認された。しかし、今回の調査では遺構の有無確認のみで留め、遺構の掘り下げは実施しなかった。

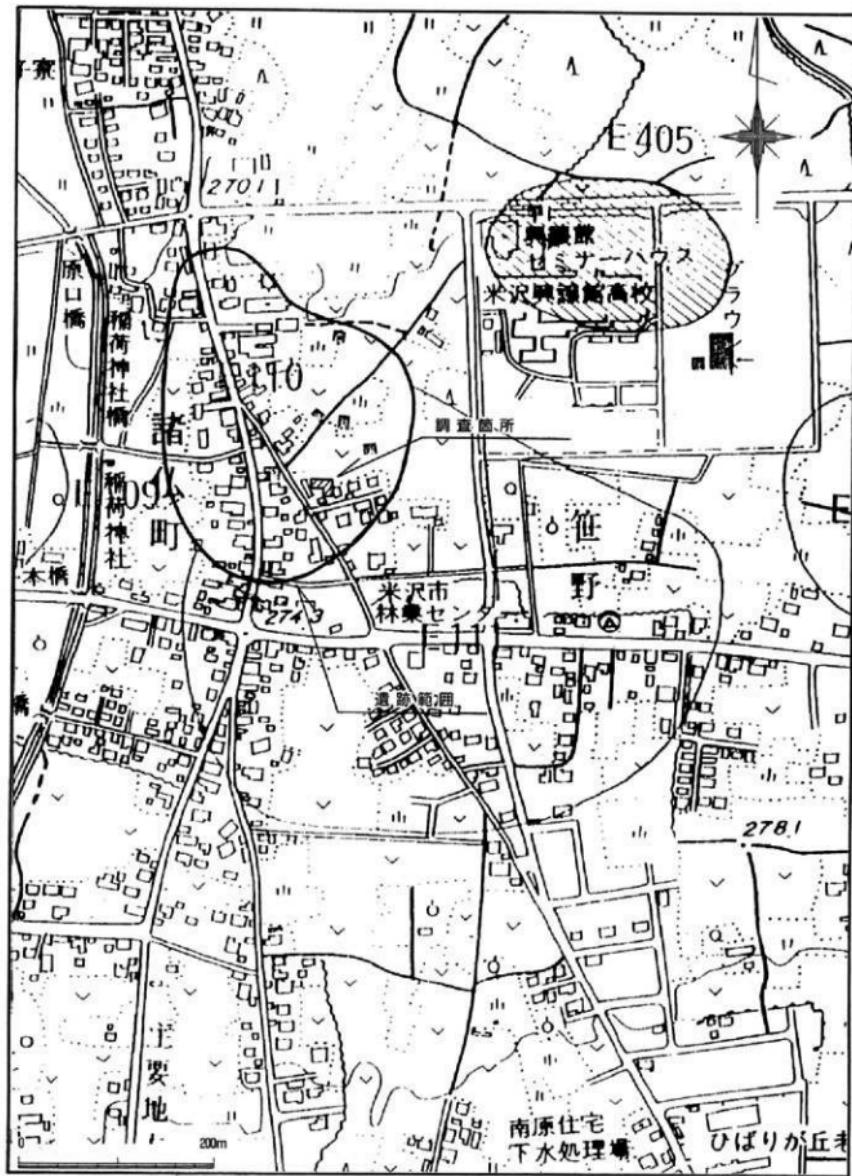
遺構の確認は、土層が安定していることから明確に判断された。遺構の分布から判断すると、遺跡は東側及び北側の広範囲に分布していることが推定される。

以上のことから、開発者に遺跡の存在を周知し協議した結果、来年度における緊急発掘調査を実施する計画を告げた。

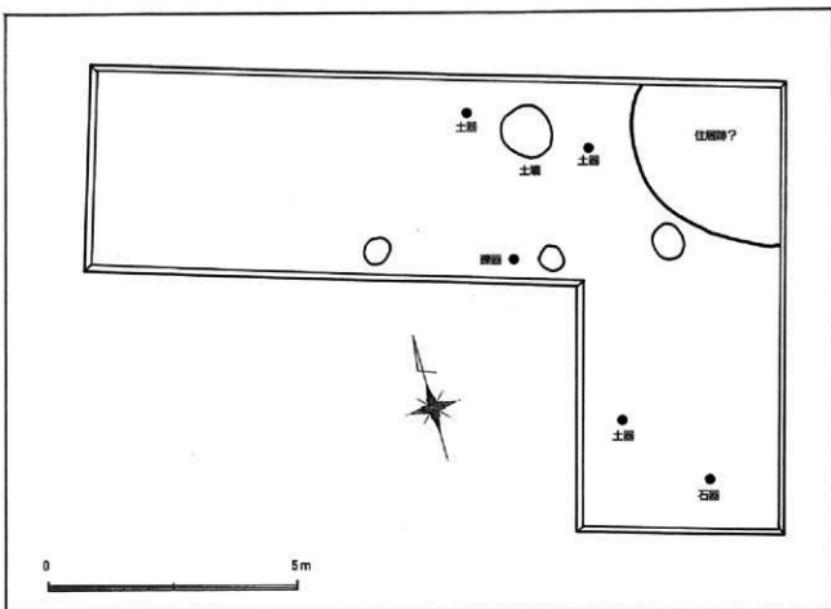
3. 出土遺物（第46図参照）

総数で35点出土しており、内訳は土器片33点、剝片1点、礫器1点であった。土器片の大半は少破片であり、摩滅が著しいことから、文様が判別できるものを選出して拓影図を作成したのが第46図1~8の土器群である。土器片は3個体分あると推測され、4、8は同一片であり口縁部に席状圧痕文を施文している。1~3、7も同一片であり、結束羽状縄文が全面に施文した大型の深鉢形土器片であろう。5、6は半裁竹管を施文した土器片で口縁部がゆるやかな波状を呈す器形である。

いづれの土器片も胎土に石英砂及び纖維を多く含み、黄褐色や黒褐色で焼成は良好である。前述



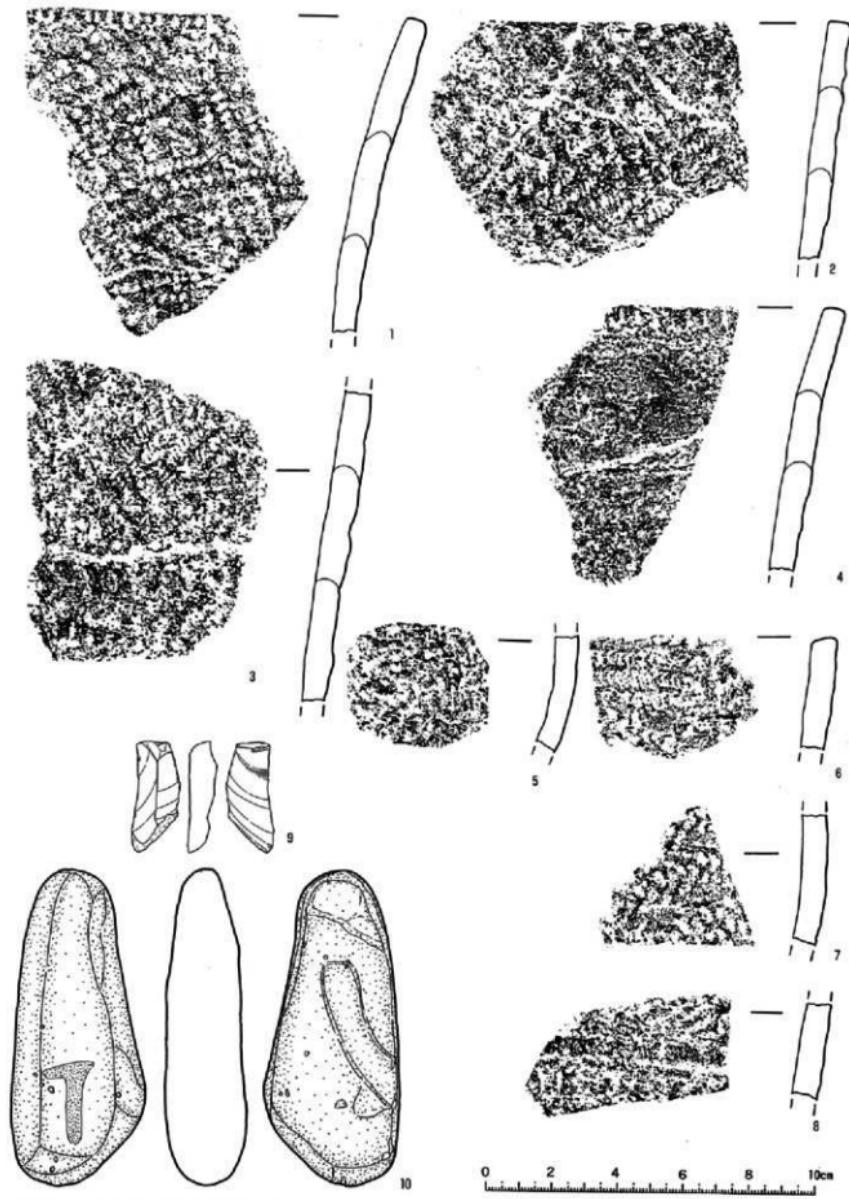
第44図 大塚山遺跡位置図



第45図 調査区概要図

した器形、胎土、文様表出技法、縄文原体の特徴からこれらの土器群は縄文時代前期初頭に位置し、本市においては松原遺跡や法将寺、八幡原B遺跡、窪平遺跡等がある。

9は剥片であり、縁辺からの二次調整は認められなかった。石核から素材を剥離する際に認められる調整剥片と推測される。10は安山岩の河原石を利用した磨石であり、幅のせまい縁辺を作業としている砾器である。



第46図 大塚山遺跡出土遺物実測図

第Ⅲ節 台ノ上

1. 遺跡の概要 [第47図参照]

「吾妻町」を黒線で囲んだ箇所に位置する。東方には吾妻山を源とする松川が北流し、遺跡範囲の北端部には米坂線が東西に走り、大半は住宅地として利用されている。遺跡は旧松川によって形成された自然堤防を中心に分布し、南北740m、東西230mの約17万m²にわたって広がる縄文中期中葉を中心とした集落跡である。

遺跡の発見は、JR米坂線の工事の際に遺跡の台地を削平して土砂を運搬した時に多量の土器が出土したことが最初の発見と伝えられている。記録によれば、米坂線の工事は大正11年（1922）10月に第一区として、米沢市から広幡村までの工事がおこなわれた。この工事のよって遺跡が発見されたと考えられ、言い伝えによると植木鉢の破片のようなものが、たくさん盛土に混入していたと伝えられている。

こうして発見された台ノ上遺跡には、関心を寄せる人たちが訪れ、多くの研究者や考古学爱好者による遺物の採集や試掘、発掘調査が試みられています。これらの調査及び採集品は縄文時代中期中葉の大木8a、8b式に併行する遺物であり、土偶、曲玉、石冠、石棒や多量の土器片があり、機関紙等に報告されている。

発掘調査は昭和37年（1962）に米沢女子高等学校（現在の九里学園高等学校）による遺跡南側の調査、昭和45年の置賜考古学会による遺跡北西部の調査が行われており、竪穴住居跡や炉跡、土壙、墓壙等の遺構と多量の遺物が発見された。その後平成3年（1991）と同4年には、米沢市教育委員会が市道改修工事に伴う緊急調査として実施した。この平成3年度の調査を第1次調査とした。従って、第48図に示した調査箇所は米沢市教育委員会が実施した調査区を示したものであり、今回の調査区を第9次調査とした。平成3年、同4年の第1・2次調査区からは、炉跡や土壙、墓壙の遺構の他に土偶や石棒等の遺物が出土している。この調査区は東西に細長い範囲であったことから遺跡の東側縁辺と西側縁辺の遺跡範囲を把握することが可能であった。

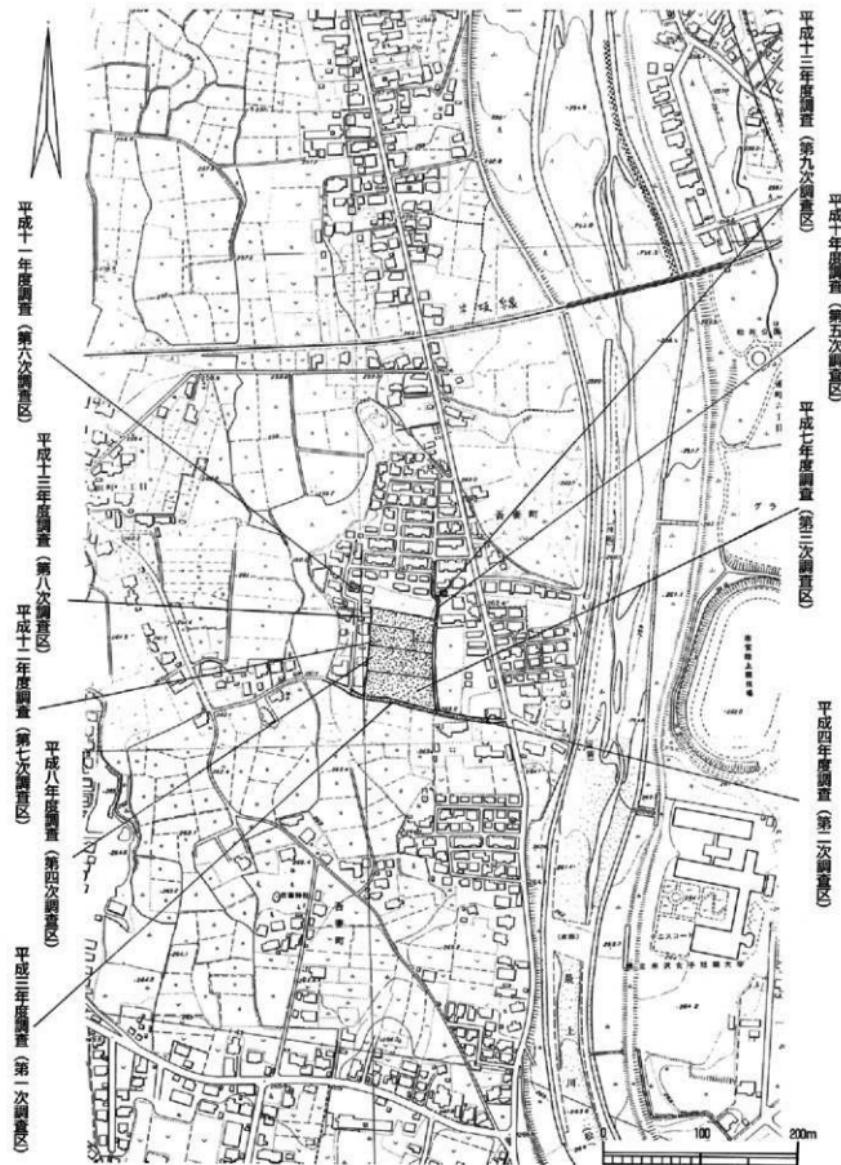
平成7年、同8年には、個人の土地基盤整備に伴う緊急調査として約3000m²を対象に発掘調査を実施しており、成果は米沢市埋蔵文化財報告書第55集として平成9年に刊行している。この2カ年の調査では大型竪穴住居跡3棟を含む竪穴住居跡58棟と土壙、墓壙309基が環状に配置されていることが確認されている。

遺物としては土偶125点、完形土器約400点、三脚石器、同土製品等を含む約20万点が出土しており、台ノ上遺跡の集落が縄文中期の中心遺跡であることが判明した。平成10年には下水道工事に伴う調査、平成11年には宅地に係る調査を実施しており、調査区が小範囲にもかかわらず多量の遺物が出土している。

平成12年からは個人の牛舎関連施設工事に係る緊急発掘調査として約5000m²を対象にした調査を平成16年度までの5カ年計画で実施している。最初の平成12年度は約1500m²を対象に実施、今年度は第8時調査として約2000m²の調査を実施した。今回は第9次調査となる。



第47図 台ノ上遺跡位置図 (50,000分の1)



第48図 台ノ上遺跡調査区位置図

2. 調査の経過

調査は個人の宅地増築工事に伴う緊急調査として実施したものであり、平成13年6月4日から同年6月7日の期間で実施した。発掘の対象となった箇所は平成12年から継続して調査を進めている調査区の北東に位置し、周辺は宅地で占められる。

調査範囲は東西6m、南北5mの30m²であるが土砂置場等のこともあり、実際に調査を実施した範囲は東西5.3m、南北4.3mの範囲であった。調査は表土剥離から実施した。表土は盛土を含む厚さ40cmの深さであった。盛土は山砂を含む混合であり、その下層は耕作であった。耕作土下面は黒褐色層があらわれ、遺物が出土した。遺物の大半は土器片で占められ大木8a、8b式伴行の土器群であった。地形は西側が高く東側に若干傾斜する様相を呈していた。

遺物の出土量の東側に多く集中する出土状況であった。これらの作業は小範囲な調査であることから人力で実施した。

6月5日は薄曇りの天気であり、遺構確認作業を中心に調査を進め、土壤、住居跡のプランを確認するにいたった。また、埋設土器2基も確認した。ただし微高地の西側の埋設土器は耕作等によつて、すでに口縁部から胴下半部まで削平されており、底部を残すだけの出土状況であった。

6月6日は晴れの天気で住居跡の掘り下げを中心に調査を実施し、夕方までに終了し、その後、写真撮影をした。住居跡は四分の一を完掘した。床面の直上からは土偶の足の部分や石器が出土した。6月7日はくもりであった。平板測量やセクション図を作成し、終了した。

3. 検出遺構〔第50図参照〕

今回の調査区からは竪穴住居跡(HY)1棟、埋設土器2基、土壤2基の総計5基の遺構群が認められた。これらの遺構群は掘り下げなかったDY2を除き、出土遺物から判断して縄文中期中葉の大木7a式~大木8b式伴行の遺構群である。各遺構について説明したい。

◎竪穴住居跡〔HY1〕

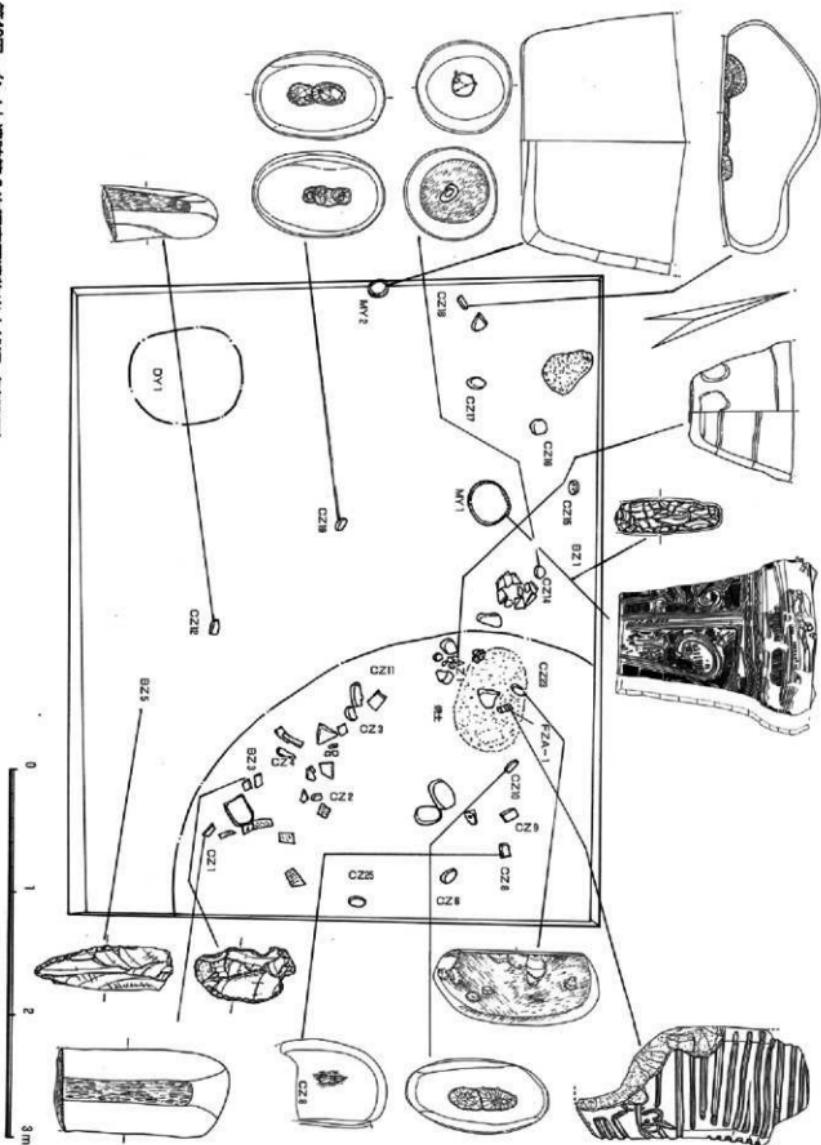
微高地の縁辺下に構築された様相を呈す竪穴住居跡であり、全体の四分の一を完掘したと想定される。長径が想定で3.4mのほぼ円形状を有するものであり、壁直下近くに3基の柱穴を確認した。壁はゆるやかに立ち上がり、床面は平坦である。床面の直上に集中して焼土が認められる箇所があり、焼土の上からは大型土偶の脚部が出土している。出土状況から住居跡が廃絶された時に土偶が配置されたと考えられる。他に住居跡の床面からはBZ6・11の磨製石斧とBZ7の石箆状石器が出士している。

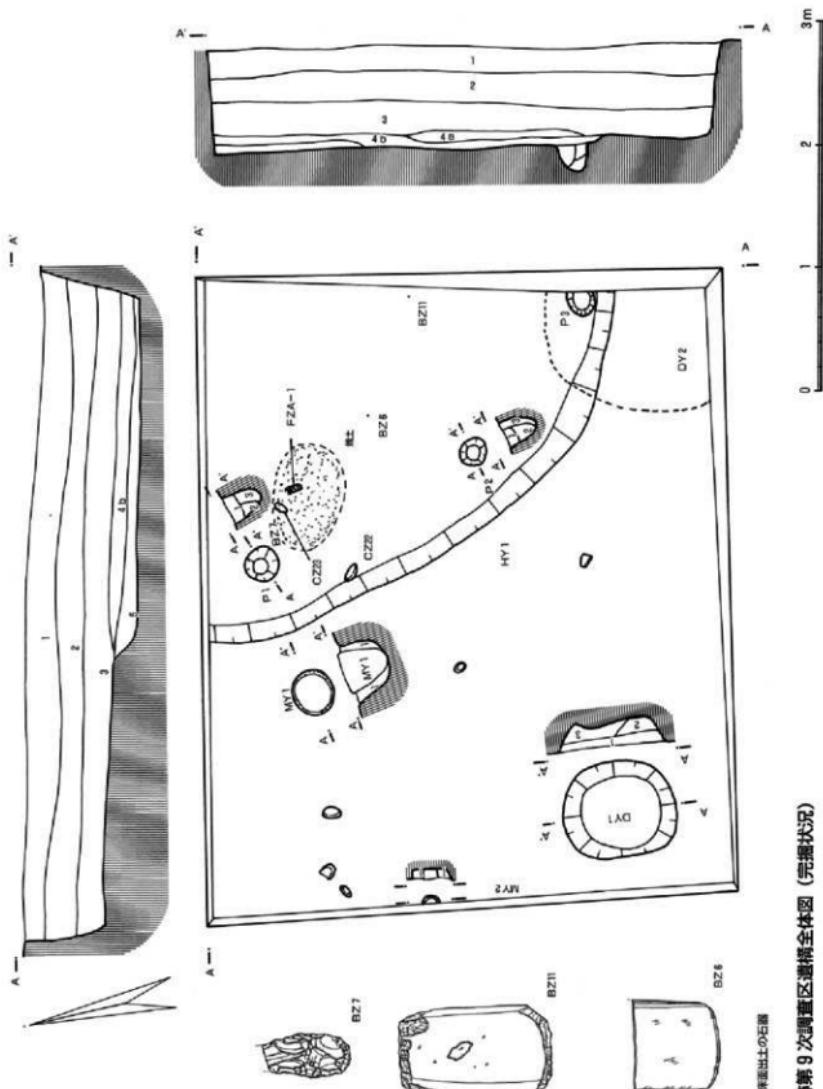
土器片は確認面から多量に出土しており、東方に向いて出土量が多い傾向を呈する。廃絶後に捨場として利用された状況であり、床面に貼り付いた土器は今回完掘した範囲からは認められなかった。

◎土壤〔DY1, DY2〕

円形状を呈するDY1を完掘した。深さは20cmあり、床面はやや凸凹が認められた。覆土は3層認められ1層は暗黄褐色土、2層は黄褐色土と黒褐色の混合、3層は黒褐色と暗黄褐色の混合層であった。遺物は土器片が13点出土している。HY1に関連する土壤と想定される。

第49圖 台ノ上遺跡第9次調査区遺物出土状況(縦断面)





第50図 台ノ上墳跡第9次測量区遺構全體図（完掘状況）

DY2はHY1と重複しており、重複関係からHY1よりは古い段階の土壌と考えられ、HY1の構築によって削平されてしまったと考えられる。形状は破線で示すように円形状を呈するものと想定される。大木7a・7b併行の土壌であろう。

◎埋設土器〔MY1・2〕

西側調査区壁直下のMY2はすでに大半が削平され、底部を残すだけの状況で検出した。また、磨滅が著し文様の判別さえ困難な器面を有する土器であった。MY2は微高地上に位置することから埋土が浅い状況であったと考えられ、耕作や削平によって上部の大半が消滅したと状況を呈する。これは遺跡が存続した時期の地形を表示するものとして注目される。

MY1はHY1と隣接する様に埋設され、口縁部の文様が若干欠損しているもののほぼ完形の出土状況であった。3層面を円形に掘り込んで埋設したもので掘り方は上面で50cm、底面で30cmを計る形状である。土器内部からの遺物は認められなかった。文様の表出技法からこの埋設土器は大木8a式併行の深鉢形土器である。前述したように土器内部覆土からの出土遺物はなかったが、類例から判断して幼児用の埋甕であろう。

4. 出土遺物

総数で1,569点出土している。内訳は土器片1,441点、剝片73点であり、出土数の九割を土器群が占める。主なものを述べると復元土器1点、石器6点、土偶1点、凹石1点、磨石11点、石皿2点であった。実測図や写真で示した遺物について分類を加えて説明したい。

◎出土土器〔第55図～第61図〕

第59図34・35・39の土器片を除き、縄文中期の大木7a・7b・8a・8b式併行の縄文中期前葉から中期中葉の土器群で占められ、8a・8bが主体をなす出土状況であった。大半は破片であり、復元できたものは1点だけであった。

A群土器〔第55図1～30〕

口縁部文様帯と胴部文様帯に分けられる文様構成であり、本群土器は色調が赤褐色を呈するのが特徴である。今回出土の土器群は大木7b式併行の土器群であり、口縁部にブリッヂ状を配する大木8a・8b式併行の前段階の土器群と理解される。

B群土器〔第55図31～45・第56・57図〕

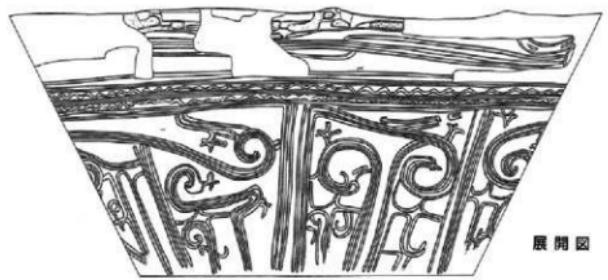
第51図に示したのが今回の調査区出土の唯一の復元土器である。三条の貼付文を基本とした文様構成であり、無調整の貼付文は大木8a式併行の特徴を有するものと考えられ、拓影図を作成した土器片の大半にこの特徴が認められる。

C群土器〔第58図・第59図1～33・36～38・第60・61図〕

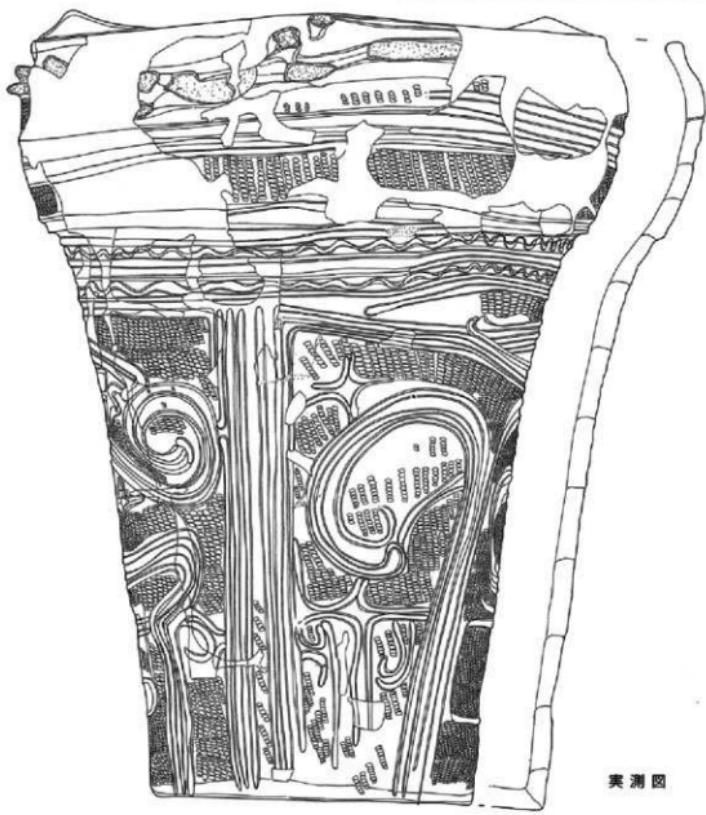
前述したB群とともに出土土器の中心をなす土器群である。特徴は空間を有する大型の突起を口縁部に配する文様構成であり、貼付した粘土紐を丹念に磨いている。これらは土器群は大木8b式併行の土器で、色調は白褐色を呈する。

D群土器〔第59図34・35・39〕

この3点は縄文後期初頭の特徴を有する土器群であり、本遺跡では初めての出土である。

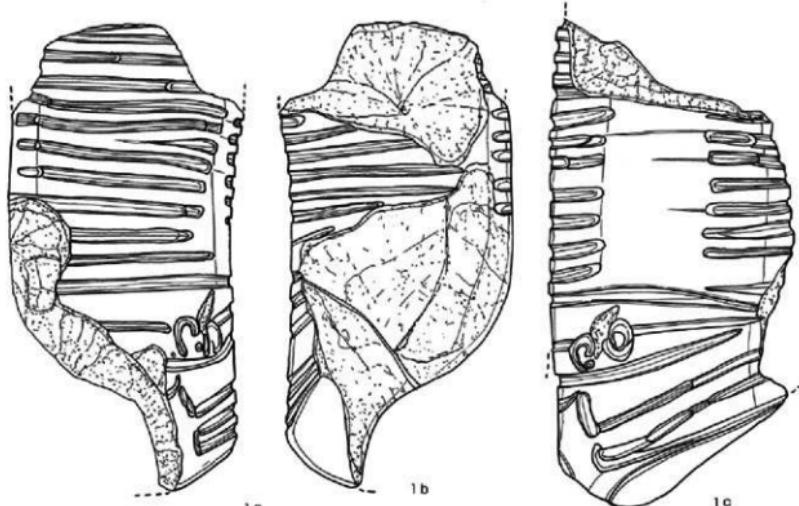


展開図

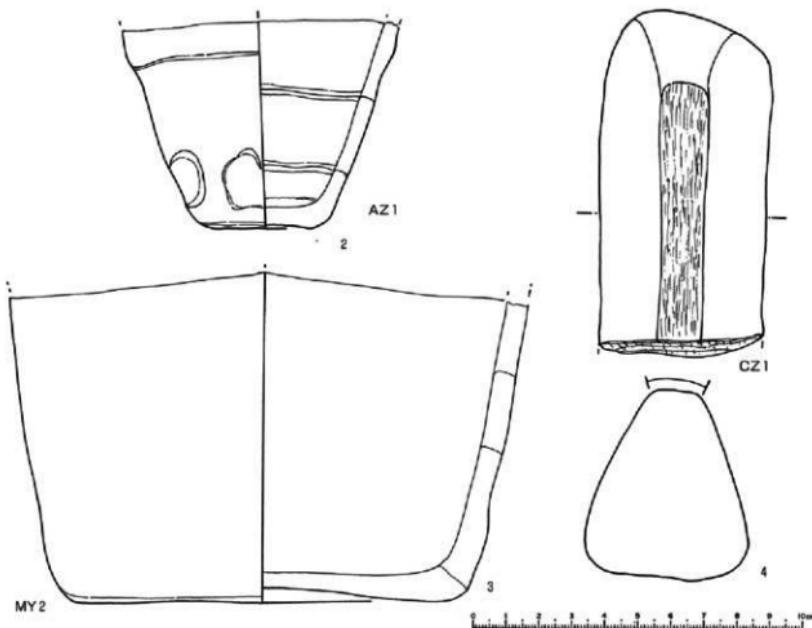


実測図

第51図 台ノ上遺跡第9次調査出土土器実測図(1)



FZA-1



第52図 台ノ上遺跡第9次調査出土土器実測図(2)

◎土偶 [第52図1a～1c]

H Y 1 の焼土上面から出土した土偶の脚部である。現状で長さ14.5cm、太さは7cmを有する形態で、沈線を全面に施している。渦巻文の特徴から大木8a式伴行の土偶であり、これまで台ノ上遺跡から出土の中でも最大の形態を有する。出土状況から判断して、住居跡が廃絶したあとに意図的にこわされて、脚部だけをH Y 1 に置いたと想定される。

◎石器 [第53図]

石匙1点、削器1点、石箇状石器2点、磨製石斧2点、剥片102点が出土している。磨製石斧以外の石材は珪質頁岩を使用している。磨製石斧は地元米沢産の岩石を使用し、研磨によって仕上げられている。第53図1は刃部欠損、同図2は頭部が欠損している。

◎礫石器 [第52図4・第54図]

形態としては凹石、石皿、磨石がある。凹石は第54図2～4のように両面を使用しているものが多く認められた。石材は遺跡の東方を北流する松川に多く産する安山岩を用いている。

磨石は第54図17の形態が認められ、全面を使用する場合と、同図7のように一箇所だけを使用している形態の2種類がある。石皿は少破片であり、図示しなかった。

5.まとめ

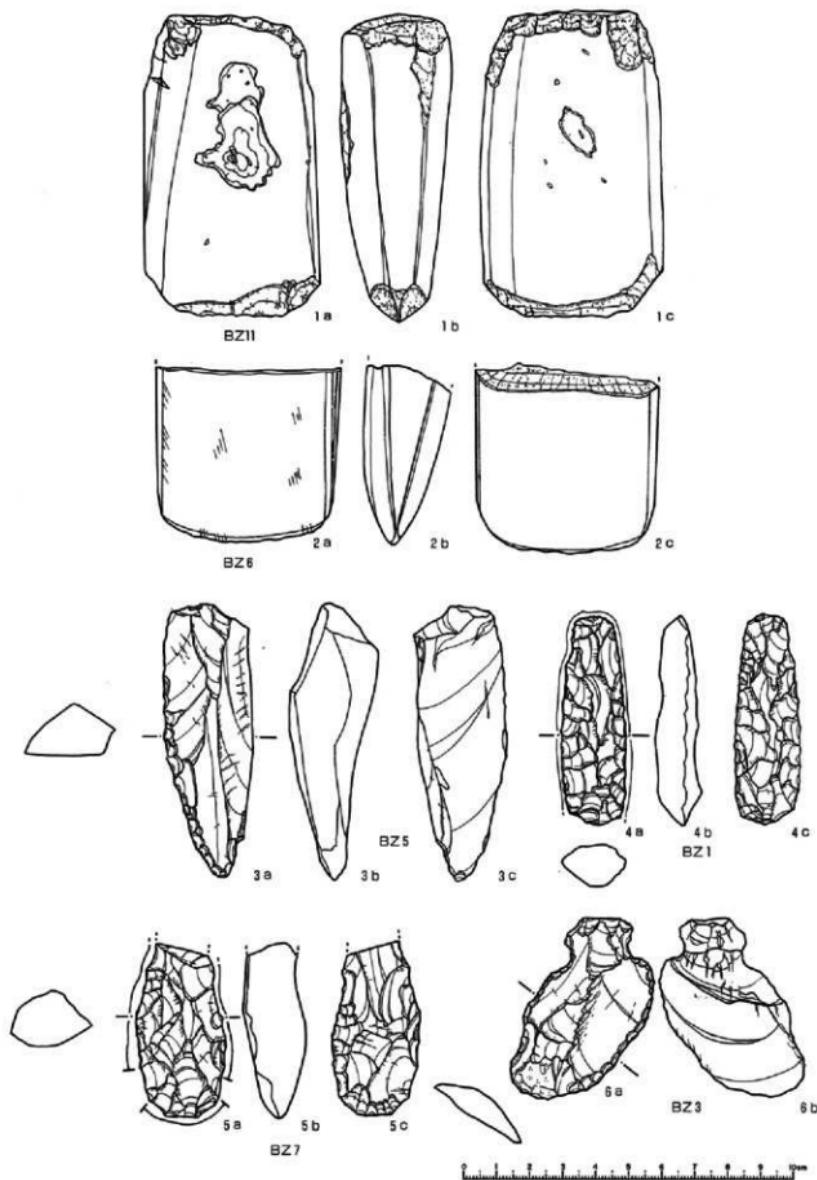
第62図に示したのが本市教育委員会が発掘調査を実施し、確認した遺構の概要である。遺跡面積の約10分の1を調査したにすぎないが、遺構、遺物は縄文中期中葉の代表する遺跡としての風格をそなえているものと考えられる。

今回の調査は小範囲であったがその成果は、台ノ上遺跡の全容解明に新たな一頁を加えたと言つて過言ではない。小範囲にもかかわらず堅穴住居跡1棟、埋設土器2基、土壤2基の確認は環状集落と想定される範囲が確実に今回の調査区まで広がっているのを示すものであった。第8次調査区からは、中心に土壤群を配し周辺に堅穴住居を構築した集落構成であり、第9次調査区は東北部に位置する。地形も西方から東方に若干傾斜することも確認され、第8次調査区と類似している。

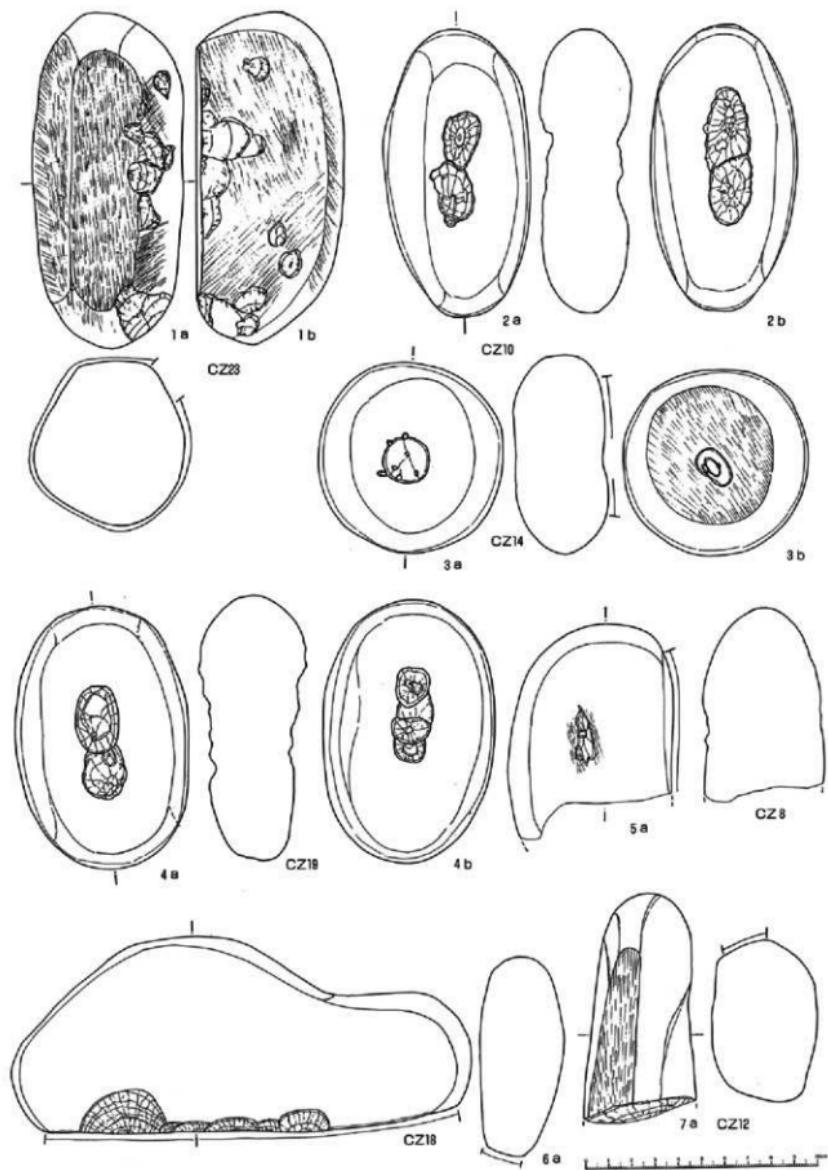
遺物としては縄文後期初頭の土器片が発見され、遺跡の存続期間も從来考えられているより長期間であったことがうかがえる資料と言えよう。現在、遺跡範囲の大半が住宅地になっており、遺跡の全容解明には地元の理解が一番であることは言うまでもないが、今回で2回目となる宅地関係の調査を無事終了したことに対して関係各位に心から感謝を申し上げます。

参考文献

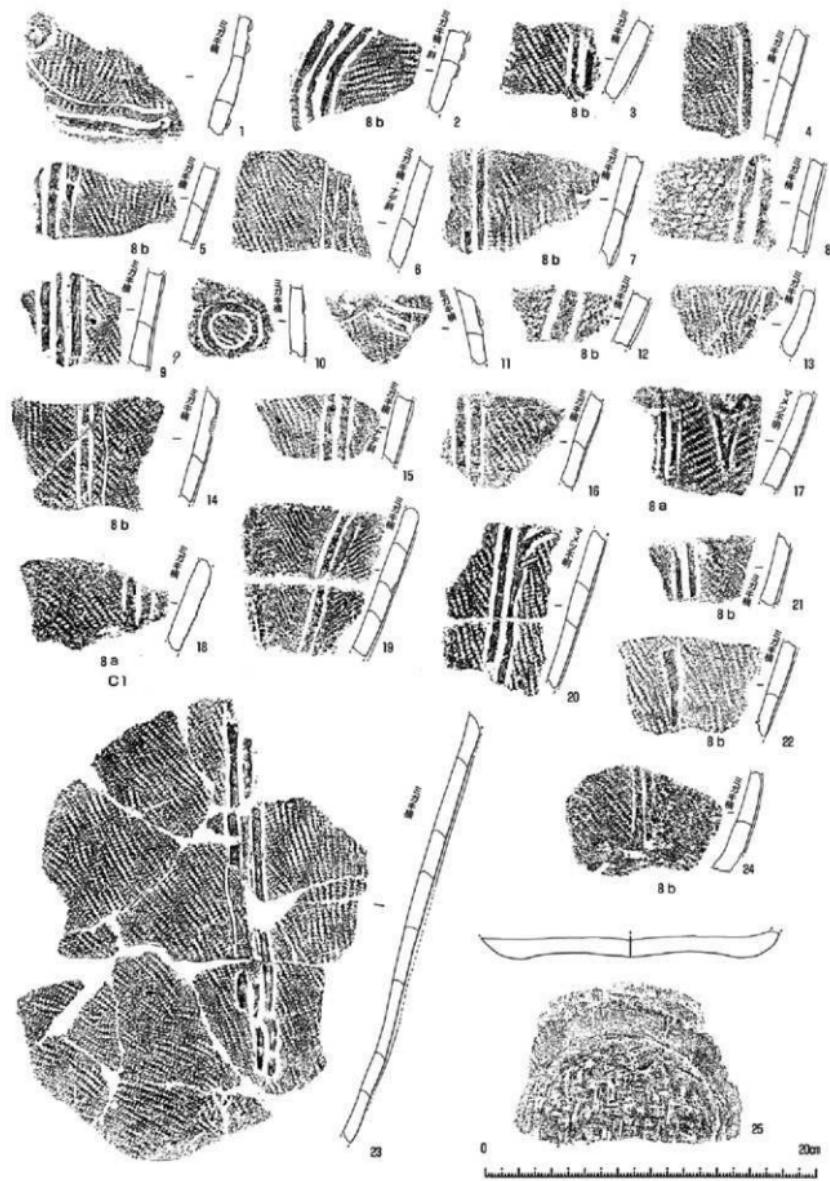
- 1993 米沢市教育委員会 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第37集
遺跡詳細分布調査報告書 第6集 第3節 台ノ上遺跡
- 1997 米沢市教育委員会 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第55集 台ノ上遺跡発掘調査報告書
- 2000 米沢市教育委員会 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第69集
遺跡詳細分布調査報告書 第13集 第2節 台ノ上遺跡



第53図 台ノ上遺跡第9次調査出土土器実測図(3)



第54図 台ノ上遺跡第9次調査出土土器実測図(4)



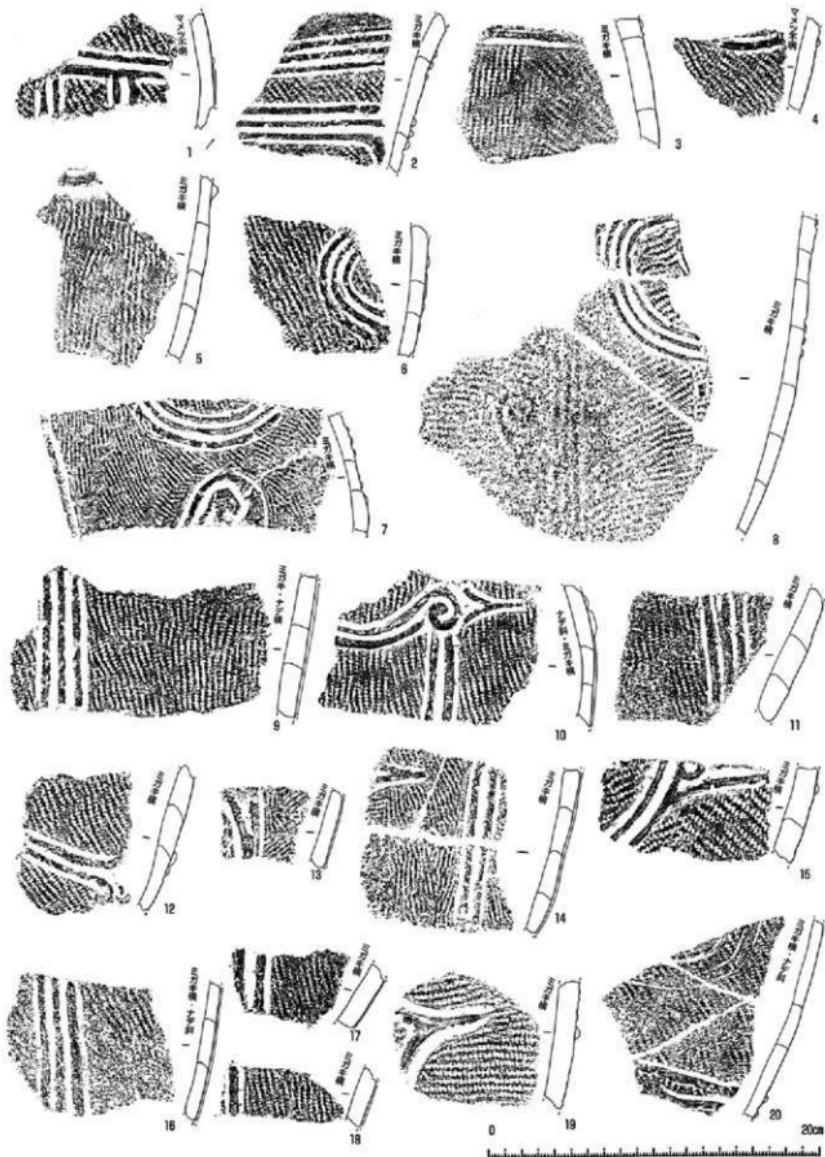
第55図 台ノ上遺跡出土土器拓影図(1)



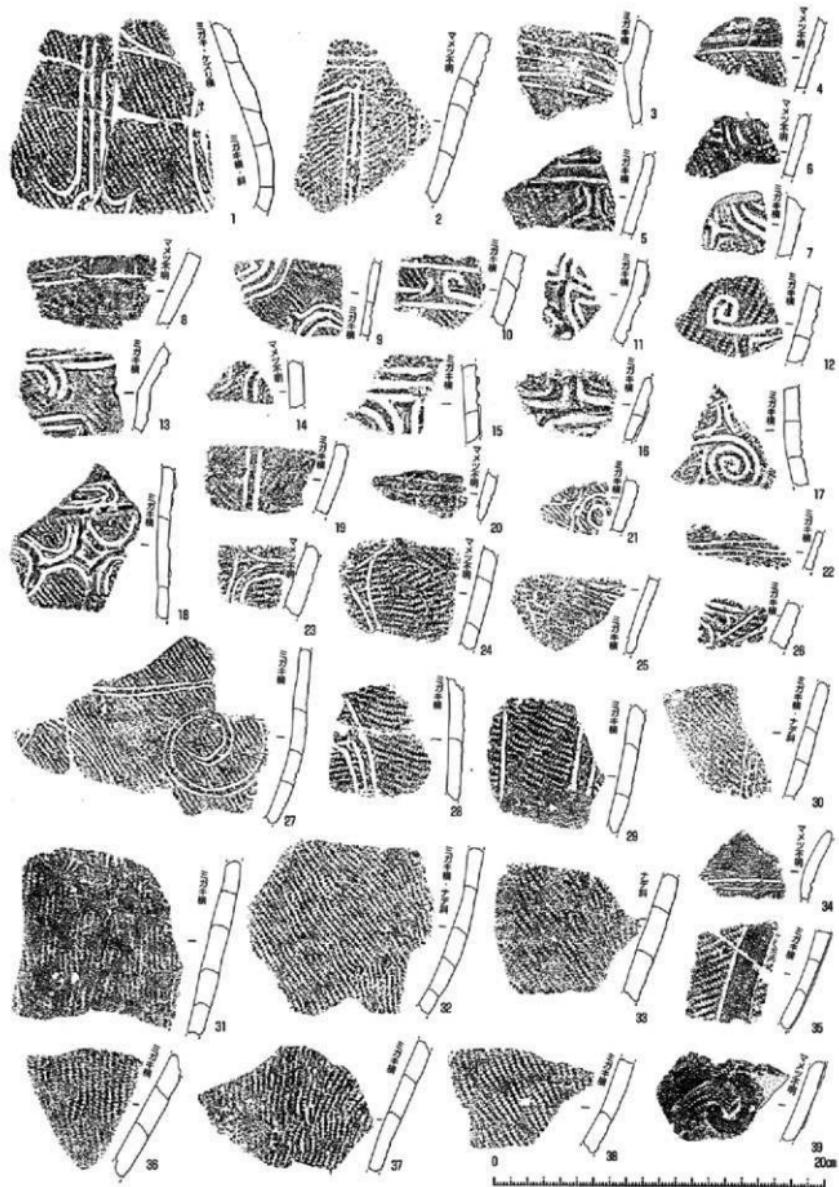
第56図 台ノ上遺跡出土土器拓影図(2)



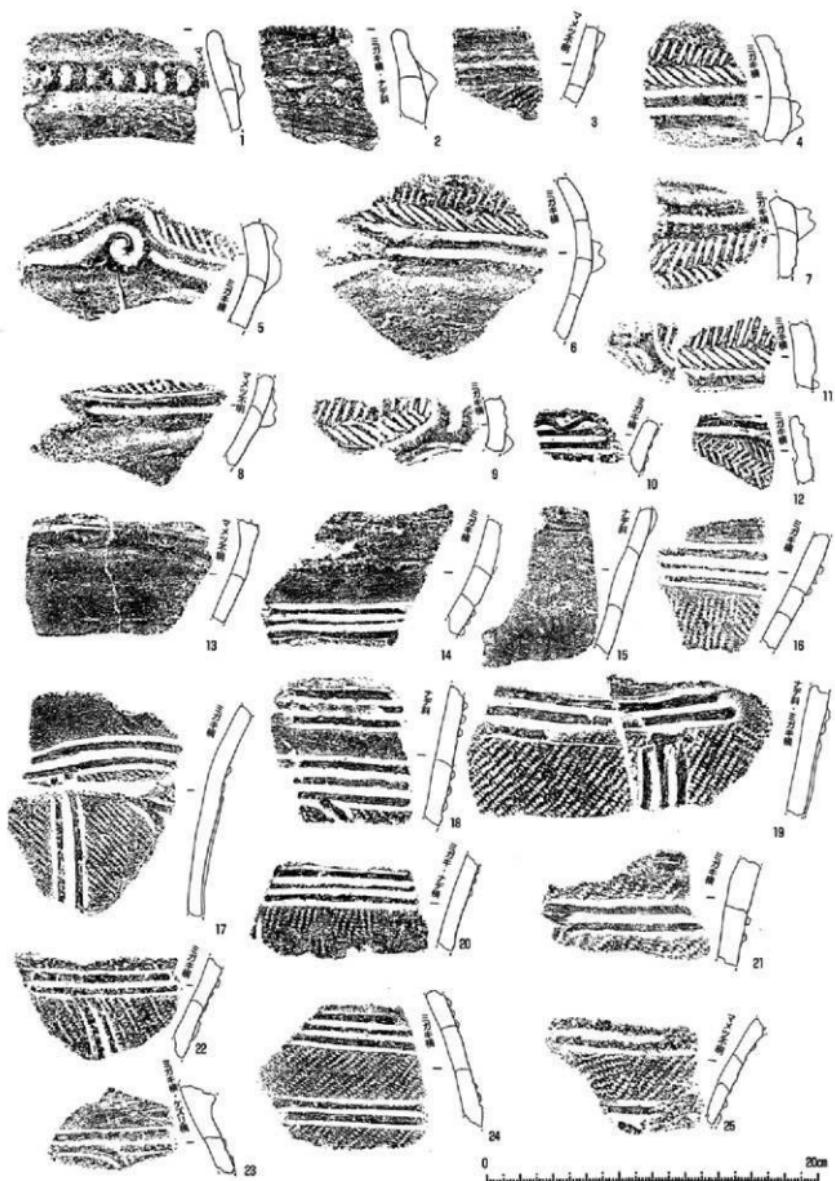
第57図 台ノ上遺跡出土土器拓影図(3)



第58図 台ノ上遺跡出土土器拓影図(4)



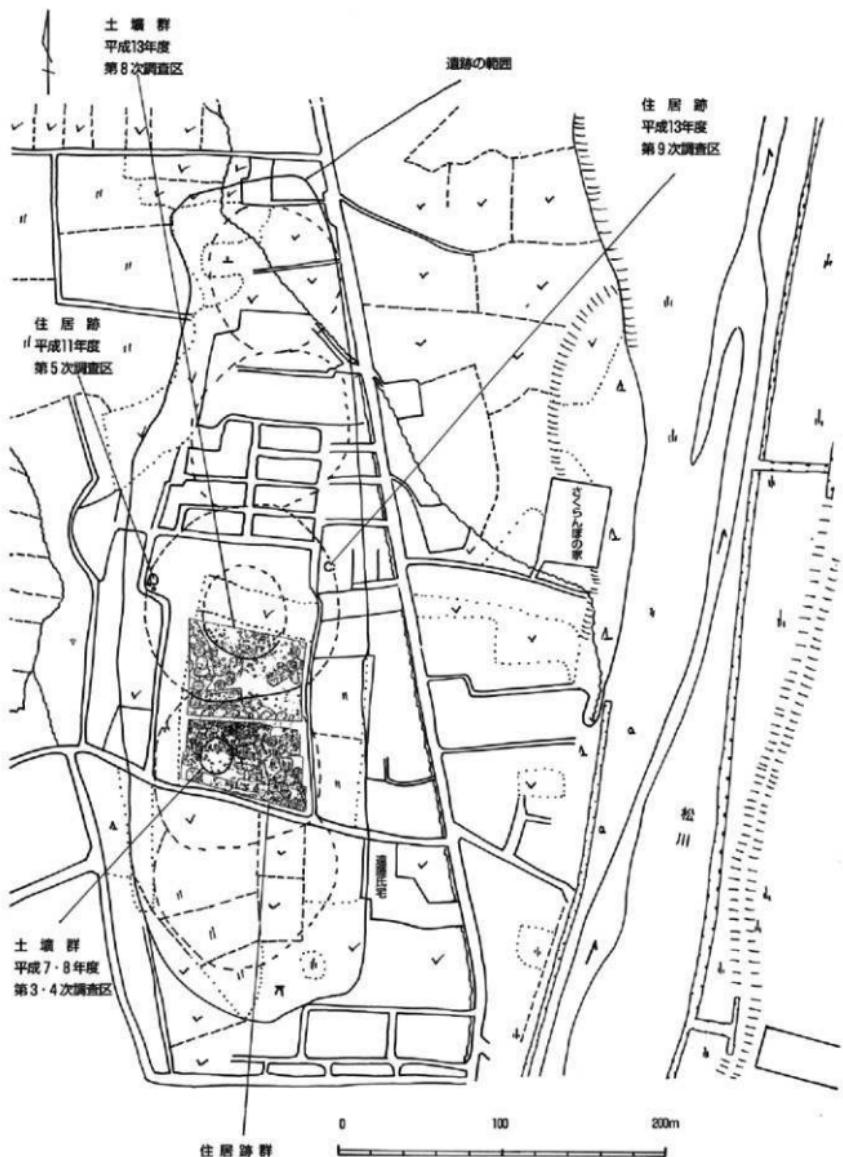
第59図 台ノ上遺跡出土土器拓影図(5)



第60図 台ノ上遺跡出土土器拓影図(6)



第61図 台ノ上遺跡出土土器拓影図(7)



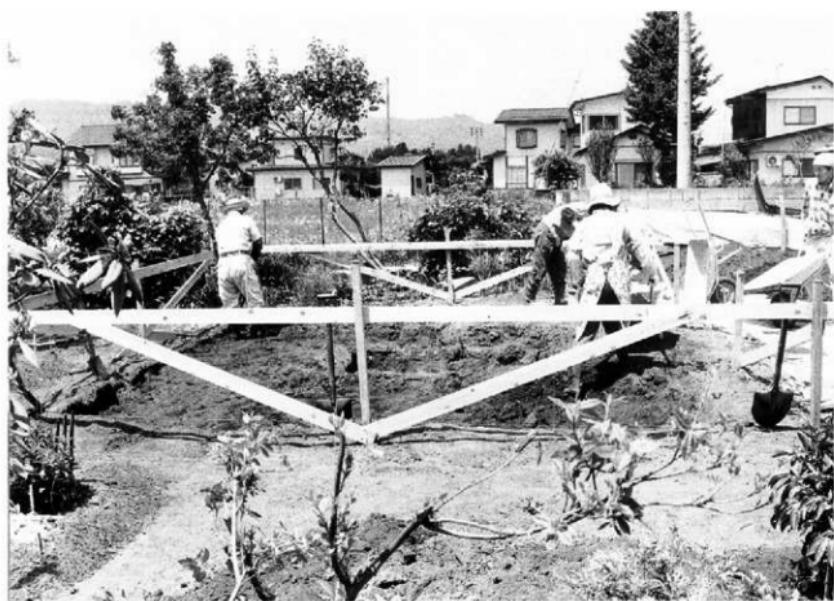
第62図 台ノ上遺跡遺構全体図

報告書抄録

ふりがな	いせきしょうきいぶんぶちょうきほうこくしょ							
書名	遺跡詳細分布調査報告書							
副書名								
卷次	第15集							
シリーズ名	米沢市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第77集							
編著者名	菊地政信・月山隆弘							
編集機関	米沢市教育委員会							
所在地	〒992-0012 山形県米沢市金池三丁目1番55号 TEL 0238-22-5111							
発行年月日	2002年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
市町村	遺跡番号	37度	140度	20010604	24	宅地造成		
台ノ上遺跡	山形県米沢市 吾妻町地内	6202	E-222	53分	07分	~		
				30秒	28秒	20010607		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
台ノ上遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居・土塙	縄文土器・石器	縄文時代(中期) の大集落			

写 真 図 版

第一図版 台ノ上遺跡の発掘



▲ 調査風景（東から望む）



▲ 調査区発掘状況（西から望む）



▲ MY1出土状況（南方から望む）



▲ MY1 復元土器

第三圖版 台ノ上遺跡出土の土器(1)

